

# 首里杜地区整備基本計画(素案)22/01/28 版

## 第1章 計画策定の背景

<b>1. 計画策定の背景</b> .....	<b>1 章-1</b>
(1)「新・首里杜構想」の策定 .....	1 章-1
(2)「首里杜地区整備基本計画」の目的・意義・計画期間.....	1 章-3
(3)計画対象範囲(首里杜地区) .....	1 章-3
(4)策定の経緯.....	1 章-4
<b>2. 首里杜地区整備基本計画の前提</b> .....	<b>1 章-6</b>
(1)計画の位置付け.....	1 章-6
(2)計画に関連する地域の意向.....	1 章-7

## 第2章 首里杜地区の特徴及び目指す姿

<b>1. 特徴及び目指す姿</b> .....	<b>2 章-1</b>
(1)首里杜地区の特徴.....	2 章-1
(2)首里杜地区整備基本計画で目指す姿 .....	2 章-15
<b>2. まちづくりの課題</b> .....	<b>2 章-17</b>
<b>3. 基本方針及び施策体系</b> .....	<b>2 章-21</b>
(1)古都首里を感じる景観の創出 .....	2 章-21
(2)歴史文化資源等の保全・整備・活用.....	2 章-23
(3)暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり .....	2 章-25

## 第3章 整備基本計画(10年計画)

<b>1. 計画期間における到達目標</b> .....	<b>3 章-1</b>
(1)「古都首里を感じる景観の創出」に向けた到達目標.....	3 章-1
(2)「歴史文化資源の保全・整備・活用」に向けた到達目標.....	3 章-2
(3)「暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり」に向けた到達目標 .....	3 章-2
<b>2. 取り組み抽出及び優先順位化の考え方</b> .....	<b>3 章-4</b>
<b>3. 抽出した取り組み一覧</b> .....	<b>3 章-5</b>
<b>4. テーマ(エリア)別実施プログラム</b> .....	<b>3 章-8</b>
(1)テーマ(視点)及びエリア別パッケージの考え方 .....	3 章-8
(2)テーマ・エリア別実施プログラム .....	3 章-9

---

## 第4章 計画の実現に向けて

---

<b>1. 推進体制</b> .....	<b>4 章-1</b>
(1)役割.....	4 章-1
(2)構成.....	4 章-1
<b>2. 事業進捗の評価</b> .....	<b>4 章-3</b>
(1)評価と計画改定.....	4 章-3
(2)評価の方法.....	4 章-3

---

## 参考資料

---

<b>1. アンケート調査</b> .....	<b>参考-</b>
<b>2. 事業一覧(元データ)</b> .....	<b>参考-</b>

# 第1章 計画策定の背景

## 1. 計画策定の背景

### (1)「新・首里杜構想」の策定

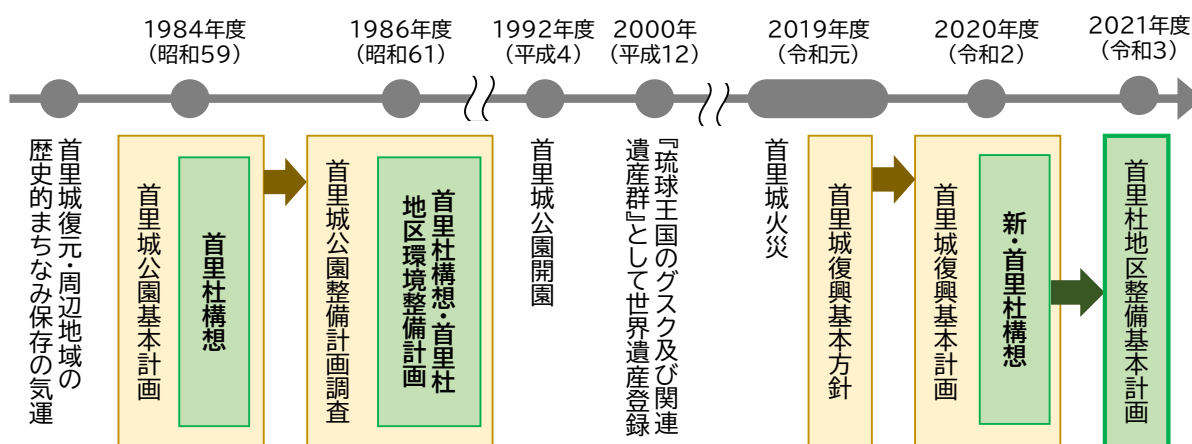
首里杜地区整備基本計画（以下、本計画とする）は、『首里城復興基本計画』（2021年3月）において位置づけられた「新・首里杜構想」に基づく計画となる。これは、「新」の名が示すとおり「首里杜構想」を見直したものである。

「首里杜構想」とは、1984（昭和59）年に沖縄県が策定した『首里城公園基本計画』において示された、首里城公園整備の基本理念となる構想である。構想では、首里城公園を核にこれを取り巻く城下町（首里杜地区）、そして首里のまちを成立せしめた自然地理的空間（歴史的風土保全地区）という3重構造を設定した。首里城復元の基本姿勢として、首里城が単体ではなく、周囲のまちや環境と一体的な存在であるとの概念を示したものであり、ここで描かれた首里の歴史的まちづくりの方向性は、その後のまちづくりにも大きな影響を与え、様々な場面で理念として引き継がれてきた。

このような中、2019（令和元）年10月31日に首里城火災が発生した。沖縄県では、首里城の再建にとどまらず、首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興に向けた取り組みを進めるとして、同年『首里城復興基本方針』を策定した。方針のなかで、首里杜地区は首里城跡を保護するバッファゾーンであり、「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直しすることが示され、翌2020（令和2）年に策定された『首里城復興基本計画』において「新・首里杜構想」が位置づけられた。

「新・首里杜構想」では、首里城公園及び首里杜地区を改めて一体的なものとしてとらえ、歴史・文化的遺産の復元整備や歴史的風土環境の保全を行い、後世に残していくという〈理念〉に基づき、次ページに示す5つの〈方針〉が盛り込まれている。

「首里杜構想」から「新・首里杜構想」及び本計画の策定まで



※緑枠が首里杜構想及び関連計画

## 新・首里杜構想

### 〈策定の意義〉

首里杜構想は、地形や水系など古都首里の歴史的発展を特徴づけた風土環境を基盤に、首里城を中核とする文化資源、それをとりまく首里杜地区として位置づけられた首里のまちづくりの方向性を示したものであり、これに基づき 35 年以上にわたり取組が実施されてきた。

このような中、令和元年 10 月 31 日未明に発生した火災により、首里杜構想の中核である首里城正殿等が焼失した。一方で、この焼失は、首里城から派生し、それぞれに受け継がれている私たち沖縄の文化を改めて意識する契機ともなった。

この機を捉え、首里杜構想で残された課題及び社会状況やニーズの変化に対応するため、新・首里杜構想を策定し、新たに 50 年、100 年後に伝承していく歴史、文化的な首里杜地区の形成に取り組んでいく。

### 〈理念〉

首里城正殿をはじめとする首里城公園全体及び城下町として発展した首里杜地区を改めて一体的なものとしてとらえ、歴史、文化的遺産の復元整備とともに歴史的風土環境の保全など、県民が首里杜地区を沖縄の歴史、文化を体現する空間として共有し、これを後世に残していく。

### 〈方針〉

1. 中核をなす首里城及び外苑の一群の文化資源を保存・整備するとともに、文化を育む拠点の充実を図る。
2. 古都首里の歴史的なたたずまいに配慮した景観形成とともに、住みやすく魅力的なまちづくりを進める。
3. 総合的な交通対策により、暮らしと観光が両立した歩行者中心のまちづくりを進める。
4. 地形、地質、水系、植生等を基盤に形成された歴史的風土の環境を保全する。
5. 行政機関及び地域住民、教育機関、関係団体等が連携して推進体制を構築し、整備基本計画の策定、実施に取り組む。

1 出典：「首里城復興基本計画」（沖縄県、令和 3 年 3 月 29 日）から抜粋

## 1 (2)「首里杜地区整備基本計画」の目的・意義・計画期間

### 2 ①目的

3 本計画は、「首里城復興基本計画」の基本施策に位置づけられた「新・首里杜構想による歴史ま  
4 ちづくりの推進」を目的とし、首里杜地区に関連する、国、県、那覇市の分野別計画と整合を図  
5 り、歴史まちづくりの目指す姿や具体的な施策などを取りまとめた計画とする。

### 7 ②意義

8 首里のまちづくりや首里城公園等の整備に関しては、これまで「首里杜構想」（1984 年度）の  
9 理念と方針のもと進められてきたが、周辺のまちづくりは首里城公園の整備に比べて進捗が遅れ  
10 た部分があり、さらに観光客の増加による交通渋滞など新たな問題も生じている。

11 望ましい歴史まちづくりを推進し、地域課題を解決しつつ「首里杜構想」を実現するためには、  
12 都市計画、交通、文化、観光、商業、地域などの関係主体が、目標像を共有し、連携して取り組む  
13 必要がある。各施策を本基本計画で取りまとめることで効率的かつ効果的な事業の推進が可能と  
14 なる。

### 16 ③計画期間

- 17 • 本計画の計画期間は、2022（令和 4）年度から 2031（令和 13）年度までの 10 年間とする。
- 18 • 正殿の完成予定である 2026（令和 8）年度までを前期 5 年、それ以降を後期 5 年とする。
- 19 • 基本計画は進捗管理と事業効果の検証を踏まえ、10 年ごとに更新する。

## 21 (3)計画対象範囲(首里杜地区)



1 (4)策定の経緯

2 ①策定体制

3 本計画の策定にあたっては、「首里杜地区整備基本計画検討委員会」を設置した。専門的な内容  
4 については、委員会の下に設置した「景観部会」及び「交通部会」で議論した。

5

6 検討委員会名簿

立場	専門等	所属	氏名
委員長	都市計画	琉球大学 名誉教授	池田 孝之
委員	交通	琉球大学 工学部社会基盤デザインコース 准教授	神谷 大介
委員	観光	琉球大学 琉球大学国際地域創造学部 教授	越智 正樹
委員	歴史	沖縄県立博物館・美術館 館長	田名 真之
委員	歴史	沖縄県立芸術大学 准教授	麻生 伸一
委員	地域	NPO 法人首里まちづくり研究会副理事長	いのうえ ちず
協力委員	国	沖縄総合事務局 開発建設部公園・まちづくり調整官	望月 一彦
協力委員	沖縄県	沖縄県 土木建築部 参事	高嶺 賢巳
協力委員	沖縄県	沖縄県 土木建築部 南部土木事務所長	金城 利幸
協力委員	沖縄県	沖縄県 教育庁 文化財課長	諸見 友重
協力委員	沖縄県	沖縄県 文化観光スポーツ部 観光振興課長	又吉 信
協力委員	那覇市	那覇市 都市みらい部 部長	幸地 貴
協力委員	那覇市	那覇市 市民文化部 文化財課長	大城 敦子
協力委員	那覇市	那覇市 経済観光部 観光課長	池村 博之
協力委員	指定管理者	(一財)沖縄美ら島財団 事務局長	西銘 宜孝

7

8 景観部会(委員)名簿

立場	氏名	職名等
委員	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
委員	越智 正樹	琉球大学 国際地域創造学部 教授
委員	麻生 伸一	沖縄県立芸術大学 准教授
委員	いのうえ ちず	NPO 法人首里まちづくり研究会副理事長

9

10 景観部会(関係部局)名簿

区分	関係課
国	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部公園・まちづくり調整官
沖縄県	土木建築部参事、都市公園課、都市計画モルルール課、南部土木事務所、文化財課、観光振興課、観光政策課
那覇市	都市計画課、道路建設課、花とみどり課、文化財課、観光課
指定管理者	(一財)沖縄美ら島財団

11

12

## 1 交通部会(委員)名簿

立場	氏名・立場	職名等
委員	神谷 大介	琉球大学 工学部社会基盤デザインコース 准教授
委員	いのうえ ちず	NPO 法人首里まちづくり研究会副理事長

2

## 3 交通部会(関係部局)名簿

区分	関係課
国	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 公園・まちづくり調整官
沖縄県	土木建築部参事、都市公園課、道路街路課、道路管理課、南部土木事務所、交通政策課、観光政策課、観光振興課
那覇市	都市計画課、道路建設課、観光課
指定管理者	(一財)沖縄美ら島財団

4

## 5 ②策定経緯

6 委員会及び部会は次の日程で実施した。

7

## 8 策定経緯

回	日付	検討内容	
第1回検討委員会	2021(令和3)年 7月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観・文化分野の方針及び方向性について</li> <li>交通分野の今年度作業方針・現況整理</li> <li>アンケート調査について</li> </ul>	
部会	景観部会①	2021(令和3)年 9月13日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観部会の検討範囲・進め方</li> <li>首里杜地区の特徴(「首里らしさ」とは)</li> <li>拠点となる地域資源の検討</li> </ul>
	交通部会①	2021(令和3)年 9月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通部会の作業範囲と本日の資料構成</li> <li>首里杜地区を取り巻く交通の現状・課題</li> <li>首里杜地区の交通環境改善に向けた取り組み(案)</li> </ul>
	景観部会②	2021(令和3)年 12月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果等の概要</li> <li>首里杜地区整備基本計画(骨子案)の検討</li> </ul>
	交通部会②	2021(令和3)年 12月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果等の概要</li> <li>首里杜地区整備基本計画(骨子案)の検討</li> </ul>
第2回検討委員会	2022(令和4)年 2月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>首里杜地区整備基本計画(素案)の検討</li> <li>推進体制の検討</li> </ul>	
第3回検討委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	

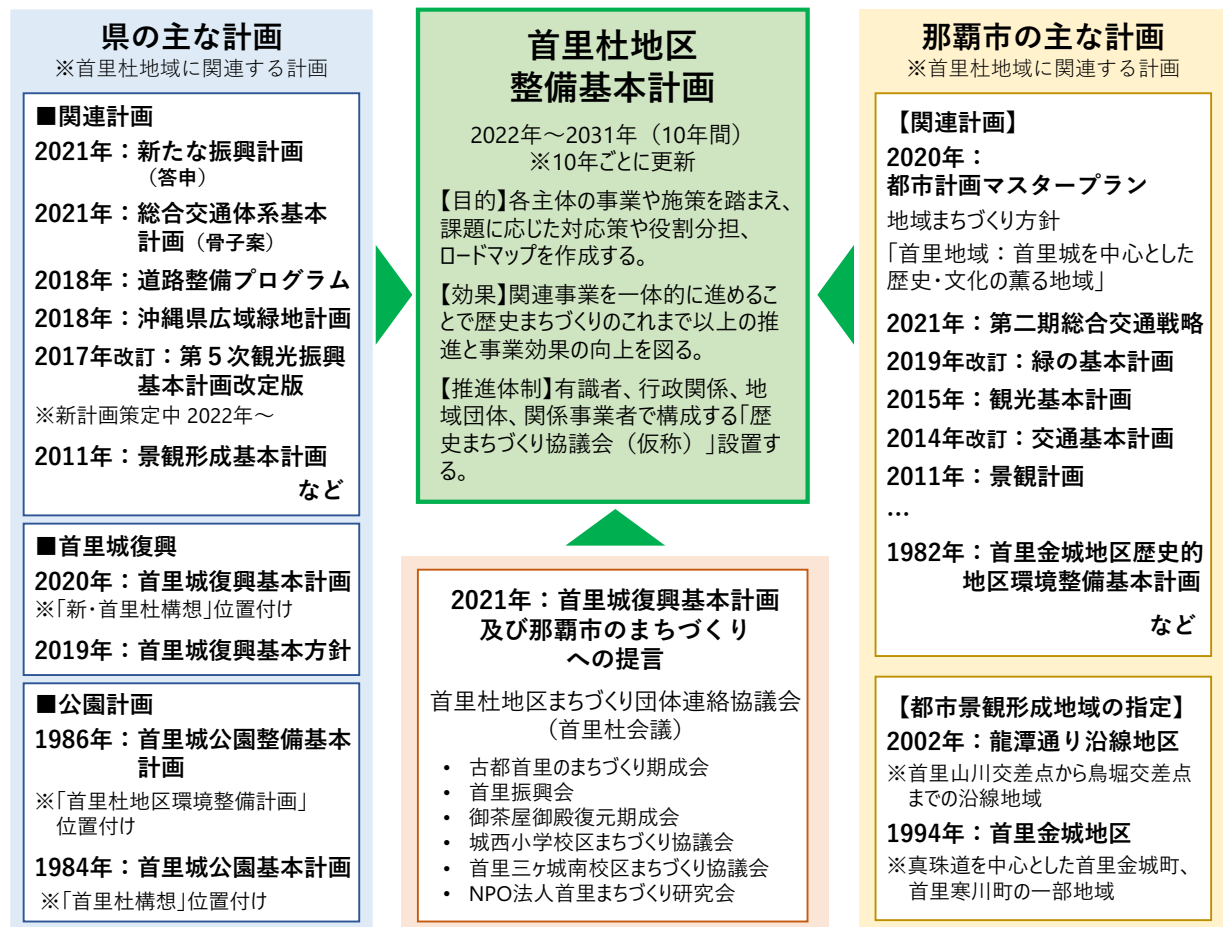
9

## 2. 首里杜地区整備基本計画の前提

### (1) 計画の位置付け

本計画は、新・首里杜構想を実現する具体策としてまちづくりの目指す姿や施策をとりまとめるものであるが、首里のまちづくりに関することから、那覇市都市計画マスタープランをはじめとする市の地域計画をベースとする。これに関連する国・県の計画や、地域団体からの提言などの地域意向を踏まえ、さらに目指す姿の実現のために必要な新たな施策を追加し、体系化するものである。

本計画の位置付け





## 1 (2)計画に関連する地域の意向

2 首里杜地区のまちづくりには、地域の関わりが重要である。首里杜地区には各自治会をはじめ  
3 多くの地域団体があり、それぞれ活発に活動しているところであるが、特にまちづくりに関して  
4 は2020（令和2）年に「首里杜地区まちづくり団体連絡協議会」（注）として地域団体の横断的組  
5 織が結成されている。

6 （注）協議会は、古都首里のまちづくり期成会、首里振興会、御茶屋御殿復元期成会、城西小学校区まちづくり  
7 協議会、首里三ヶ城南校区まちづくり協議会、NPO法人 首里まちづくり研究会 の6団体からなる。

8 同協議会は2021（令和3）年2月、『首里城復興基本計画および那覇市のまちづくりへの提言  
9 「50年後、どんな首里のまちにしたいですか？」』（以下、「提言書」）を発表した。また、2021年  
10 10月には「首里杜地区・首里歴史エリアまちづくりMAP」を公開した。

11 今回、首里杜地区整備基本計画を策定するにあたり、この提言書やMAP、地域住民や団体への  
12 アンケート調査や意見交換会を通して地域意向を確認した。主な地域の意向は次のとおりである。

### 14 ■歴史まちづくりについて

15 アンケートでは、残していきたい・首里らしいと感じる場として、石畳や首里城、龍潭などの  
16 文化財や、崎山馬場通り・龍潭通りなどの道すじに多くの回答が集まった。挙げられた資源の大  
17 半はこれまでに行われてきた歴史文化資源の整備箇所とも重なっている。その他、御茶屋御殿、  
18 玉那覇味噌醤油店、酒造所や染織り工房などの地域資源がみられる。また、首里らしさや文化資  
19 源を後世に受け継ぐために必要な対策としては、保護制度の充実、景観整備への支援と景観規制、  
20 文化資源の周知などが上位に挙げられた。なお景観保全ルールの是非については、あるほうがよい  
21 と答えた人が9割近くに達するなど地域の景観に対する意識の高さが確認できた。

22 提言書では、公共施設の整備は本物志向で行うこと、眺望を重視したまちなみ整備、スージグ  
23 ヴァーの整備、首里の歴史的環境を踏まえた水と緑のうるおいある環境整備を求めるとともに、「歴  
24 史文化資源を点ではなく面として周遊できること」「歴史と伝統文化を体感できる整備で、住民と  
25 訪問者双方が満足するまち」を標題に掲げている。

26 意見交換会では、これ以外に中城御殿や円覚寺、御茶屋御殿などの復元整備にむけた取り組み  
27 への要望、伝統芸能や地域資源の継承に祭りが果たしてきた意義などについて意見があった。

### 29 ■交通環境について

30 今回のアンケートで交通量に対する感覚を調査したところ、入城観光客数ピーク期（2019年頃）  
31 と2020年7月以降を比較すると、首里杜地区全体で「多すぎて非常に迷惑」と感じていた人が  
32 約39%から約4.2%と減少していることが確認でき、特に池端交差点付近を抽出して比較すると  
33 64%から0%と大幅に減少しており、首里城公園へアクセスする道路の交通量低下の影響が大き  
34 いことが確認された。

35 また、今後のまちづくりを考える上での交通の問題を調査すると、「朝夕の交通渋滞」が突出し  
36 て多く、ついで「歩行空間がない・狭い」「観光に起因する交通渋滞」「生活道路への車両侵入」  
37 「道が狭い」が上位に挙げられ、様々な要因による交通の問題が生じていることが確認できた。

38 提言書では、「渋滞のない、住民にも観光客にもやさしく、歩きやすいまち」を標題に掲げ、歩  
39 行者優先の歩いて楽しいまちづくりや福祉の観点も踏まえた新たな交通手段を提案している。

1 新たな交通手段について、路線型、デマンド型、個人型のいずれが望ましいかアンケートで意  
2 向調査したところ、路線型の希望が突出していた。また自家用車所有者が 88%と高率であるにも  
3 かかわらず、新たな交通サービスを利用したいと答えた人は 69%にのぼり、自家用車以外の交通  
4 手段への期待は高いといえる。

5

#### 6 ■今後のまちづくりに関する提案

7 提言書では、ICT 技術の活用や平和の希求（近現代史も含めた学習環境づくり）、次世代を担う  
8 子どもたちが誇りに思える場の創出といったテーマが挙げられている。地域意見交換会でも、子  
9 どもたちへの継承はたびたび話題に上った。

10 また、提言書では行政と市民が協働してつくりあげる首里のまちをテーマに、まちづくり協議  
11 会の設置や活動を提案している。

12

13

14

## 第2章 首里杜地区の特徴及び目指す姿

### 1. 特徴及び目指す姿

ここでは、首里杜地区整備基本計画で目指す姿を共有するために、首里杜地区の特徴について整理する。なお、首里杜地区は、第1章で掲載したとおり、下図の範囲とする。

首里杜地区の範囲

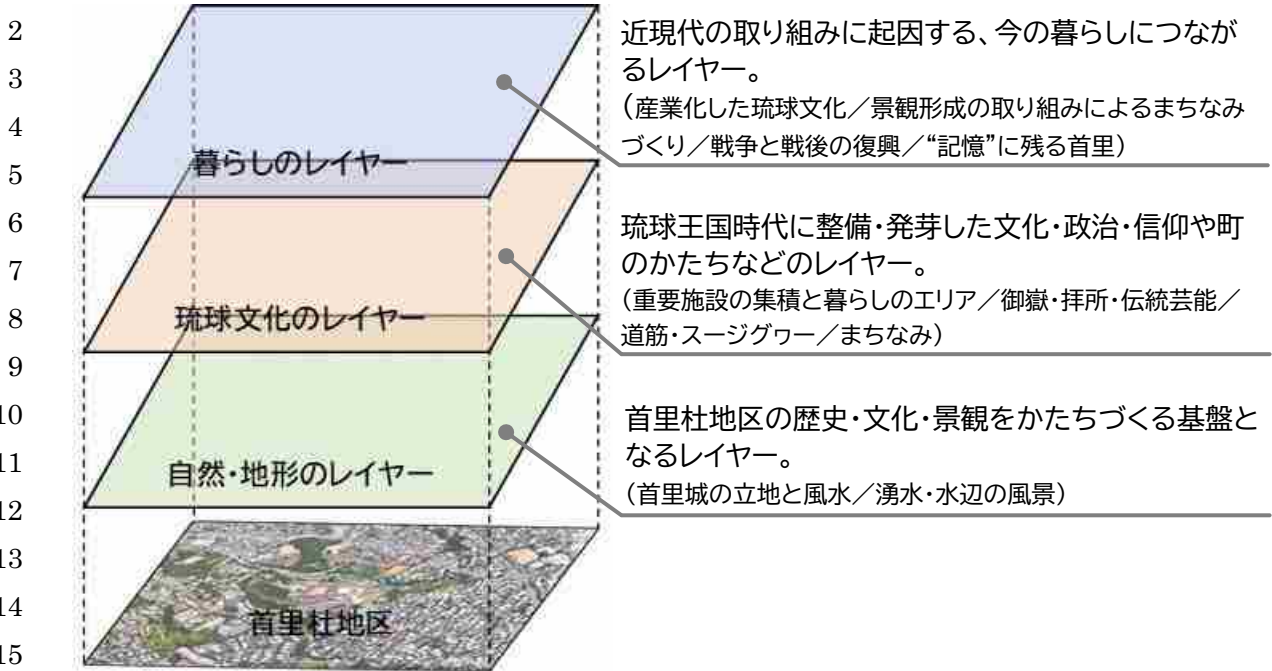


#### (1) 首里杜地区の特徴

首里杜地区は自然・地形の成り立ちから、首里城が成立し文化が開いた琉球王国時代、近代化や戦争の記憶と戦後の復興、そして現在の暮らしに至るまで、様々な歴史や文化が重層的に折り重なった地域である。

これらの特徴を厳密に分類することはできないが、代表的なものとして、次の3つのレイヤーとして整理する。

1 代表的な3つのレイヤー



17 1)自然・地形のレイヤー

18 ①首里城の立地と風水

19 ■防衛的視点

- 20 • 首里杜地区は、弁之御嶽を頂点とする首里構造台地にある。
- 21 • 北側の末吉川 (安謝川上流)、南側の金城川 (安里川の上流)、北西側の真嘉比川の、3つの川
- 22 に囲まれている。
- 23 • 最も高く、平地を見下ろす場所に首里城が立地しており、南西の那覇港を望むことができる。

25 ■風水的視点

- 26 • 弁之御嶽を頭 (主山) に龍 (首里城)、虎 (虎瀬山) になぞらえた丘陵が連続的に延び、気の
- 27 流れをつくり、龍骨上に配置された首里城は実に風水上のポイントにあり、龍潭に湛えられた
- 28 水と緑が周囲の丘からもたらされる気を溜めているといわれる。
- 29 • 蔡温らが首里城及び玉陵の風水について見た記録が残されている。

30 『球陽』 尚敬元年 (1713 年)

31 正議大夫毛文哲・都通事蔡温等、禁城並びに国廟及び玉陵を相す

32 「恭しく玉陵を観るに、国都の高処に発祖し、最も好し。城中に竜泉あり。味美にして且つ清し。即ち玉陵の地

33 性、亦知るべし。虎瀬より末吉に至る一連の山林。隠居として穴を譲り且つ、穴前平坦なり。及び其の外を望め

34 ば、即ち万家の地、広大潤寛にして、万馬を容るるに足り、最も好し。但し其の竜身、乙より辛に走り、硬直して

35 蜒蟠する無く、平坦にして高低無し。而して餌砂穴を譲る者無し。舌よりこれを観れば、即ち風吹き、梅雨打ち

36 て、気を納ること能わざるが如し。予想ふに、穴後並びに左右、深く樹木を栽し、緊固密衛し、穴をして気を泄

37 らざらしむること最要なり。蓋し玉陵の奇形は、俗眼の及ぶ所に非ず。今暫く其の略を記して、以て君子を俟つ」




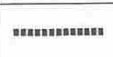
- 38 • 丘陵の緑 (斜面緑地) に守られ、豊かな湧水に恵まれた首里城下の配置には、永遠の繁栄を願
- 39 う心がこめられていた。

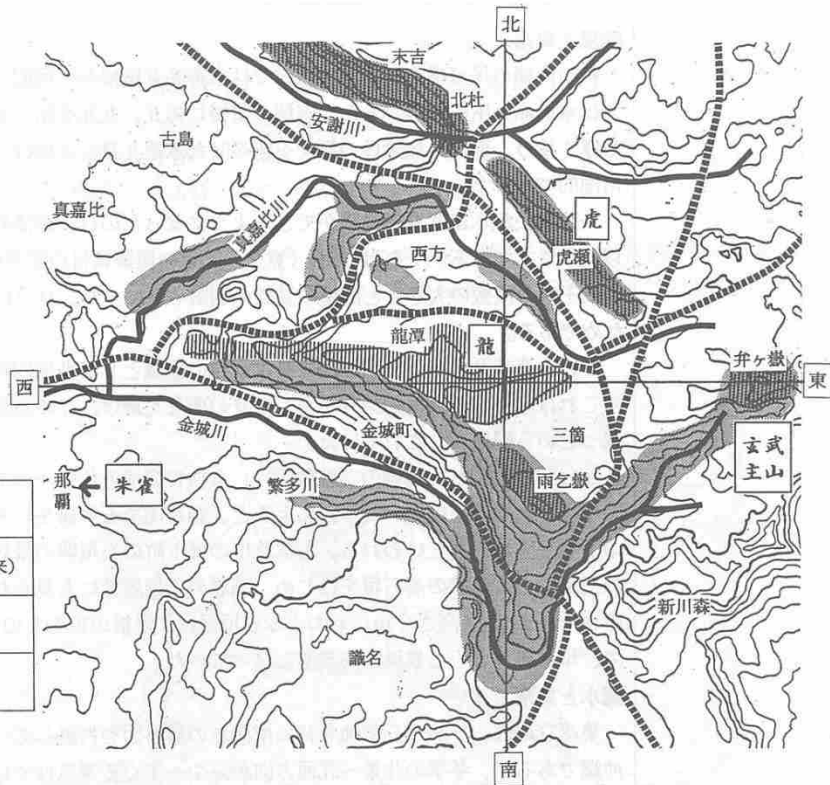
1 ■首里の風水

2 \*首里の城下町は風水的に完  
3 結した形態をとっている。  
4 石灰岩堤による丘が玄武、  
5 虎、龍という気の流れにあ  
6 たり、首里城を囲む水と緑  
7 がそれらのもたらす気を溜  
8 めている。

9

10

	斜面緑地
	石灰岩堤 (風水由来)
	河川
	道路



18 出典:「首里シンボルロード沿線地区の都市景観形成調査」(那覇市都市計画部、1996年3月)

19

20 ②湧水・水辺の風景

21 ■地質・湧水

- 22
- 23 • 島尻層群泥岩を基盤とし  
24 て、それを覆うように琉  
25 球石灰岩が分布してい  
26 る。
  - 27 • そのため、首里城及びそ  
28 の周辺は湧水が多く、水  
29 量も多かった。ただし、  
30 近年は水量の減少がみ  
31 られる。
  - 32 • 水が豊富なことは、首里  
33 城の立地や、泡盛や紅  
34 型、紙すきなど、首里  
35 杜地区の産業の発展に  
36 欠かせない要素であっ  
37 た。



37 ■首里杜地区の井泉

- 38
- 39 • 首里杜地区の井泉は、水質・水量ともに優れたものが多く、飲み水や生活用水として利用されていた。また、井泉の多くは拝所として祈りの場ともなっている。
  - 40 • 井泉には人が集い、交流の場となっていた。現在でも、龍潭広場(※1)やヤマトガー(※2)など、地域の交流の場・機会として、湧水を活用した整備や人材育成がなされている。
- 41

- 1 • 那覇市が『景観形成行動計画』策定時に実施した「指定有形文化財以外の歴史的遺産悉皆（し  
2 っかい）調査」（2013 年度）（※3）によれば、首里杜地区及び周辺には指定史跡（10 件）以外  
3 にも 50 件近くの井泉が所在しており、石積みが良好に残された井泉も十数件存在する。  
4 • 市指定史跡となっているカー以外にも、歴史文化資源及び景観資源として優れているものも存  
5 在する（ただし、私有地にあるなど、活用等を検討するときには注意が必要である）。

6 ※1:【龍潭広場】

7 那覇市の交流オアシス整備事  
8 業で整備された交流スペース。

9 龍潭通りに面しており、近隣小  
10 学校の児童や観光客などが安全  
11 に休息できる開放的な空間となっ  
12 ている。



龍潭広場



13  
14 ※2:【ヤマトガー】

15 沖縄県の「風景づくりに係る人材育成事業」（龍潭通り沿線地区）とし  
16 て、モノレール儀保駅から龍潭通りへ抜けるほとりにあるヤマトガーを地  
17 域住民で修復し、水と潤いのある風景を再生。井戸の周辺にはプランタ  
18 ーを置き、近隣住民や子供たちが井戸から水を汲んで水やりできるよ  
19 うにした。



ヤマトガー

20  
21 ※3:『那覇市歴史地図—文化遺産悉皆調査報告書』（那覇市教育委員会、1986 年 3 月）をベースに、「那覇  
22 市環境マップ」などを踏まえて、実施された悉皆調査。

23  
24  
25 **2)琉球文化のレイヤー**

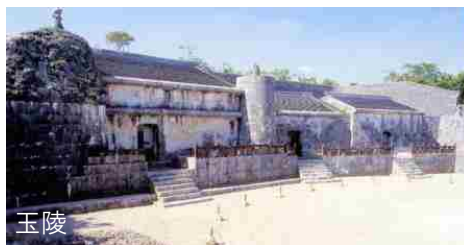
26 **①重要施設の集積と暮らしのエリア**

27 **■琉球王国の公的施設**

- 28 • 王都であった首里杜地区には、首里城を中心に、国の公的施設が集積していた。  
29 • 冊封使歓待の宴が行われた龍潭、王家の陵墓である玉陵、尚家の菩提寺である円覚寺などの寺  
30 院ほか、貝摺奉行所、高所、御客屋などが所在していた。  
31 • 円覚寺は復元に向けた取り組みが行われているほか、民有地に所在する御茶屋御殿跡の在り方  
32 についても国・県・市の連携した検討が行われている。



龍潭



玉陵

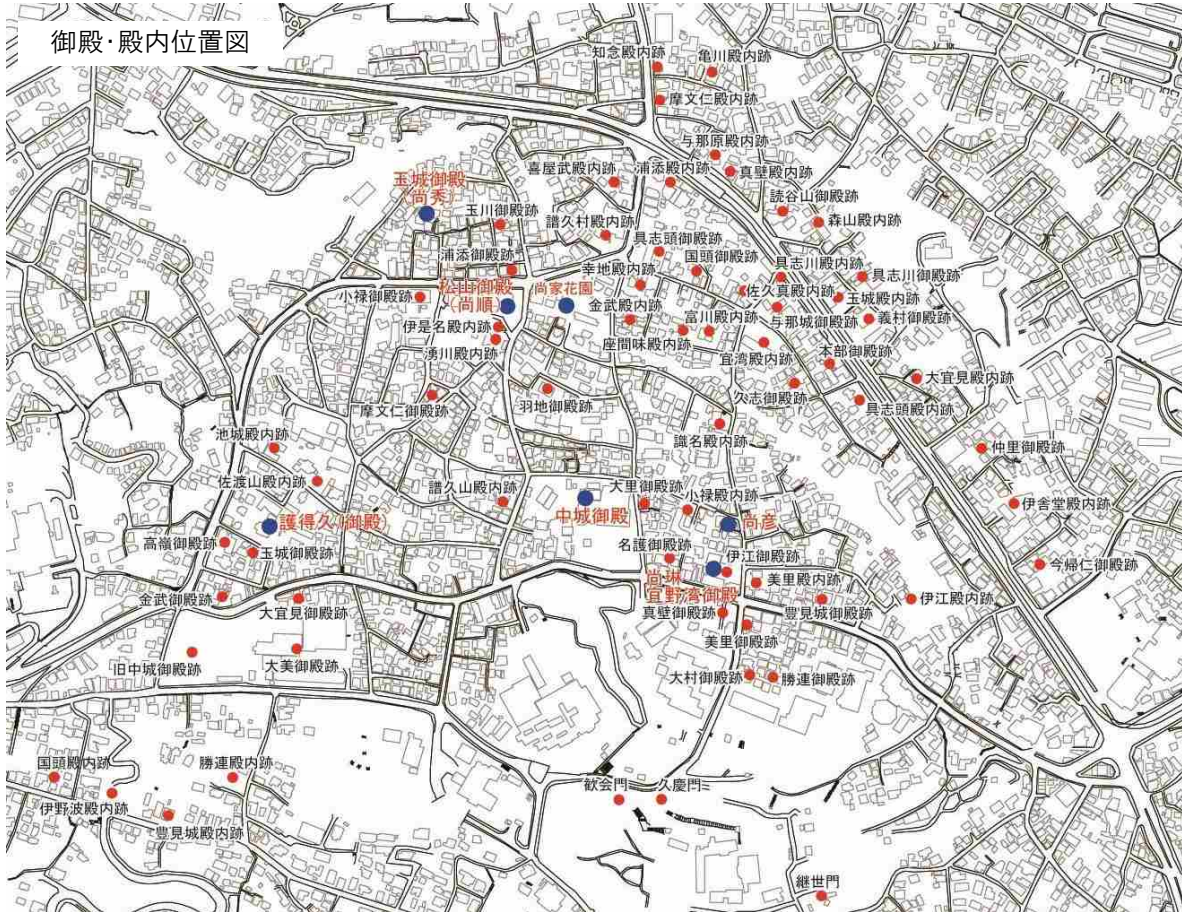


円覚寺跡

33  
34  
35  
36  
37  
38  
39 **■屋敷町から暮らしのエリアへ**

- 40 • 首里杜地区は、首里城を中心に士族の屋敷が立地する屋敷町でもあった。現在も、地域の多く  
41 を住宅用地が占める暮らしのエリアとなっている。  
42 • 王族（王子・按司）の屋敷である「御殿」、総地頭や神女などの屋敷である「殿内」も集積し  
43 ていた。

- 1 • 伊江殿内庭園など国指定名勝となっているもののほか、「指定有形文化財以外の歴史的遺産悉
- 2 皆調査」（2013 年度）によれば、未指定の御殿・殿内・名家も 90 件近くある。ただし、石垣
- 3 の大部分が残存し屋敷地としての雰囲気を残すものは数件程度である。
- 4 • 中城御殿跡の復元整備に関しては、県営首里城公園事業として検討が進められている。



24 ※青丸は尚家に関する御殿・殿内

## 26 ②御嶽・拝所・伝統芸能

### 27 ■御嶽等

- 28 • 園比屋武御嶽や弁之御嶽、安谷川嶽、内金城嶽、雨乞嶽など 5 件が国及び市指定史跡となっ
- 29 ている。
- 30 • 「指定有形文化財以外の歴史的遺産悉皆調査」（2013 年度）によれば、未指定の御嶽・拝所は、
- 31 14 件の所在が確認されている。多くは周辺環境と一体となって良好に保存されている。
- 32 • 悉皆調査対象となった御嶽等以外にも、地域には多くの拝所が存在していると考えられる。



1 ■伝統芸能の舞台

2 • 首里杜地域には、まつり・伝  
3 統行事や、行事に伴う伝統芸  
4 能も継承されている。

5 • 汀良町の獅子舞は、500年もの  
6 歴史がある県内最古の獅子舞  
7 とされる。末吉町の獅子舞

8 は、平良の獅子と末吉の龕を交換したのが始まりとされ約250年の歴史がある。どちらも、市  
9 指定無形文化財である。

10 • 赤田のみらくウンケーは、平和と豊年を招き寄せる弥勒を御迎えし、人々の無病息災と家庭円  
11 満を祈願する行事である。「路次楽の一段」と「赤田首里殿内」を奏でながらみらく行列を行  
12 う。

13 • 首里の各町で伝承される旗頭は、元々は綱引きの際に行われるものである。沖縄戦により一度  
14 途絶えたが、戦後に復興し、現在では地域活性化のシンボルとして各地区の青年会等が中心と  
15 なって継承されている。

16 • これらの伝統芸能は、地域の公民館前などの広場の他、道ジュネー（行列）として道路空間で  
17 も演じられる。

18

19 ③道筋・スージグワー

20 ■宿道等

21 • 王都であった首里は、主要道路であった中頭方西海道、中頭方東海道、真珠道（一部が金城町  
22 の石畳道）などの宿道の起点となっている。

23 • 那覇港と首里をつなぐ道のうち、守礼門と中山門の間  
24 の幅広い道を綾門大道と呼び、王家別寮の大美御殿を  
25 はじめ、玉陵、御客屋、天界寺や安国寺など王府関連  
26 の建造物が建ち並び、王都にふさわしい景観を形づく  
27 っていたとされる。

28

29 ■スージグワーと石垣・石畳

30 • 首里のまちは、王都であった時代の構造がよく残って  
31 いる。「首里古地図」に描かれている道筋・屋敷割はほ  
32 ぼ現状に近く、往時の形態を現在まで伝えていること  
33 がうかがえる（次頁の図参照）。

34 • 大中町や金城町では、小路いわゆるスージグワーが多  
35 く、また斜面地が多いため石畳も多かった。

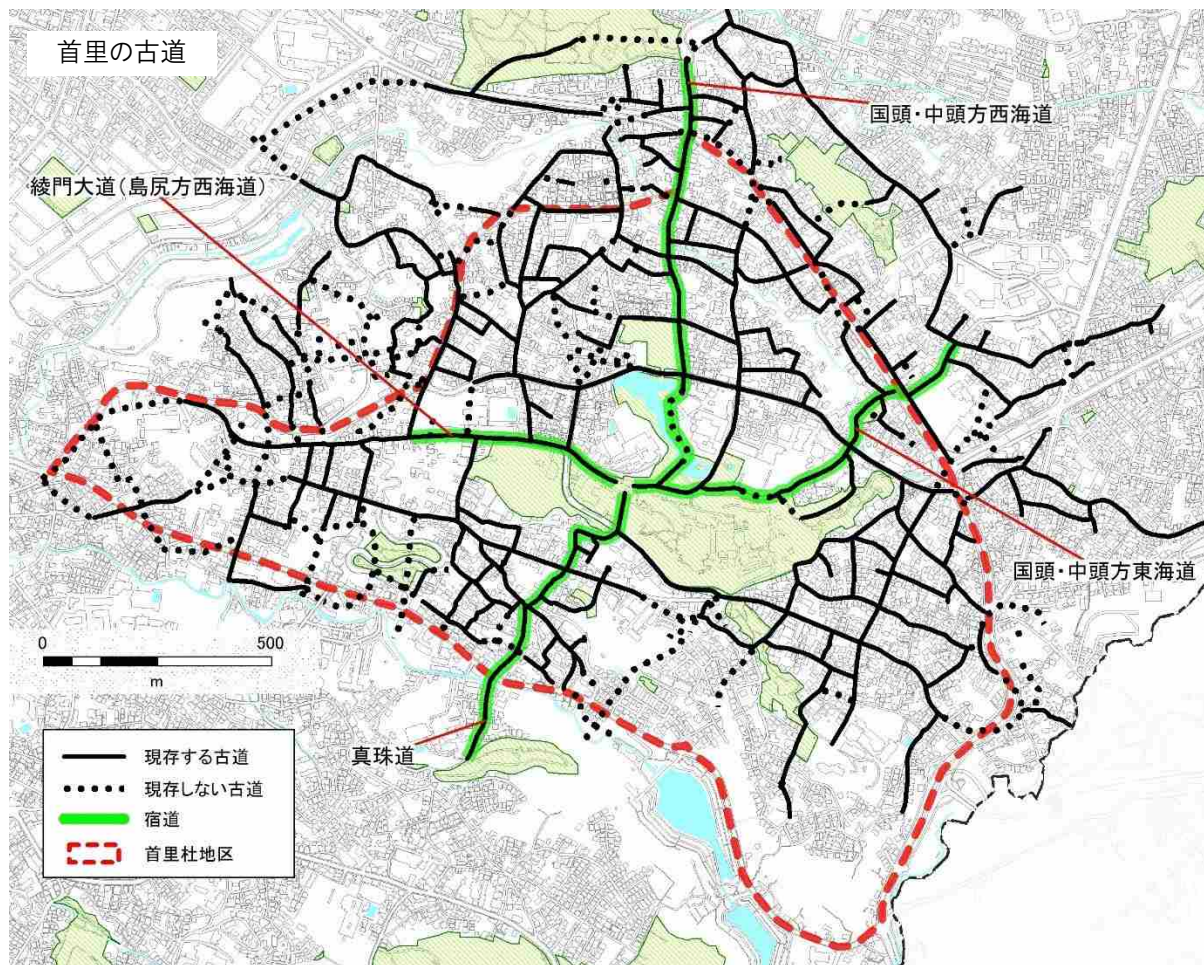
36 • なかでも金城町は沖縄戦による大きな被害を免れたこ  
37 ともあって、往時の趣を最もよく残しているエリアで  
38 ある。

39





1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39



出典：『琉球の都市と村落』（高橋誠一、2003年）を参考に、首里古地図から作成

④まちなみ(キーワード:道路、石垣、石造技術、木立・並木道、瓦屋根)

■19世紀の来訪者の記録

- 19世紀に沖縄を訪れた来訪者は、当時の那覇や首里の景観について記録を残している。これらの記録は首里や那覇の士族・平民以外の瓦葺きは許されていなかった時代のものであり、瓦屋根の都市の風景が印象深かったものと思われる。

首里城の建造物及び国中にみられるいろいろの橋、陸橋、道路などは、かなりの建築技術を示している。城郭のアーチ型門や、その巨大な石造工事や石垣は、芸術的設計のみならず、熟練した技量の跡がある。【ペリー提督／1853年／「日本遠征記」】

琉球の道路は非常によい、(中略)町の中には世界中のどんな市にもまさる平滑で美しい外観を持っているのがある。【ペリーに同行した科学者のジェームズ・モロー】

堂々たる石垣をめぐらせた長い街に、うっそうと見事な樹木が茂っている。並木道を歩く風情だ。【プチャーチン提督に同行したロシアの文豪ゴンチャロフ／1884年】

...東を振り向くと、首都、禁城の独特の様式で建てられた家々がそれを取り囲んで隠している。亭々とした木立の間を透かして、そこそこに見える。家々は、互いにゆったりと間合いをとって、しだいに丘の頂に向かって積み上げられていき、そのてっぺんに王宮を戴いている。【ジョン・マクラウド】

出典：「那覇市景観計画」(那覇市、2011年5月)

## 1 ■自然と歴史と人文が調和した庭園の都市

- 2 • 1940（昭和 15）年に沖縄を訪れた、日本民藝運動の創始者である柳宗悦は、首里について次  
3 のように述べている。

4 日本にある殆ど凡ての城下町を訪ね歩いた吾々に、どの町が最も美しいかを問はれる方があるなら、私達は  
5 躊躇はず直ぐ答へるでせう。沖縄の首里が第一であると。（中略）

6 一度道を横に折れて町々を縫へば、小石に敷きつめられた昔乍らの道が吾々の足を終りなく誘ふのです。右  
7 にも左にも苔むした石垣が連なり、それに被ひかぶさる「がじまる」や、濃い福木の緑が続き、その間に見事な赤瓦  
8 の屋根が、あの怪物を載いて現れてくるのです。それは真に活きた庭園の都市なのです。之以上に人文の華を  
9 織りなした名園があるでせうか。一度その懐に入るならば、佇徊時を久しくして去りがたい想いを禁ずることができ  
10 ないでせう。自然と歴史と人文との調和が、かくもよく保存せられている都市は稀有な存在だと云はねばなりません。【柳宗悦】

11 ※下線及び強調は引用者による

12 出典：『沖縄の人文：柳宗悦選集 5』「沖縄の富」の「首里」（日本民芸協会編集、1972 年 5 月）

- 13 • 那覇市では柳宗悦の文章をもとに「亜熱帯庭園都市」を景観まちづくりの理念に掲げている。

## 15 ■首里を望む・首里から望む

- 16 • 首里を望む視点として、「首里八景」などの風景評価が伝わる。「〇〇八景」とは、ある地域の  
17 優れた風景を 8 つ選ぶ風景評価の様式で、中国宋の「瀟湘八景」をなぞらえて各地でつくられ  
18 た。首里では、「首里八景」、程順則による「中山東苑八景」、宜湾朝保による「崎山別宮八景」  
19 などがある。また楊文鳳は「中山首里十二勝景」を詠んでいる。「首里八景」がいつ頃、現在  
20 伝わる形となったのかは明らかではないが、高橋康夫は「中山八景」や「首里十二勝景」の成  
21 立時期の分析などから、おそらく 18 世紀の末頃だろうとしている。新崎盛珍の『思い出の沖  
22 縄』（1956 年）には、首里八景の表題を提示し、各景に関連する詩歌・漢詩を紹介している。  
23 また『詩歌集 那覇を詠う』には、同名での和歌が紹介されている。（次頁参照）
- 24 • また、先述の 19 世紀の来訪者の記録などでも那覇港から首里を望む視点が記録されている。
- 25 • 首里から望む視点として、首里杜地区内の那覇市景観計画における歴史文化眺望点及び視対象  
26 は次表のとおりである。

### 28 首里杜地区の眺望点

No.	眺望点	対象
1	末吉宮	首里城および首里杜一帯に対する眺望点
2	ニシムイ御嶽	首里城および首里杜一帯に対する眺望点
3	虎瀬公園	首里城および首里杜一帯に対する眺望点
4	広福門	首里杜一帯および緑の稜線に対する眺望点
5	東のアザナ	弁ヶ嶽、首里杜一帯および緑の稜線に対する眺望点
6	西のアザナ	西の海を背景とした市街地に対する眺望点
7	京の内	崎山御嶽、雨乞御嶽一帯および緑の稜線に対する眺望点
8	崎山御嶽	首里城および首里三箇の街並みに対する眺望点
9	繁多川公園	首里金城町一帯の街並みに対する眺望点

29 出典：「那覇市景観計画」（那覇市、2011 年 5 月）

1 (参考)首里八景について

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 2 1.冕嶽積翠(べんのたけせきすい)：弁ヶ嶽 | 2.零壇春晴(うだんしゅんせい)：雨乞御嶽 |
| 3 3.経台新荷(きょうだいしんか)：弁財天堂 | 4.龍潭夜月(りゅうたんやげつ)：龍潭   |
| 4 5.虎山松濤(こざんしょうとう)：虎瀬山  | 6.崎山竹籬(さきやまちくり)：崎山馬場  |
| 5 7.西森小松(にしもりこまつ)：西森    | 8.万歳嶺夕照               |



※特に注釈が無い場合は、以下出典による。

漢詩：新崎盛珍『思出の沖縄』(1956年 新崎先生著書出版記念会)

詩歌：那覇市歴史資料室編『詩歌集 那覇を詠う』1997年 那覇市(「八重山博物館所蔵資料」)

1 冕嶽積翠(べんのたけせきすい)

弁ヶ嶽は首里の最高所の首里城の東側に位置し、冊封使の行楽地のひとつでもあり、「遊弁嶽」などの漢詩も残されている。「弁嶽積翠」は弁ヶ嶽の小高い丘が、遠く眺めると松樹の緑が重なっている様子を讃えている。

冕嶽積翠 喜舎場朝賢(東汀)

孤峰高聳禁城東 満眼嵐光四季同  
 原是鍾靈多秀色 接天佳氣日葱々  
 又  
 雄姿不興衆峰同 積翠千重接碧空  
 挂屐朝来凌絶頂 焉知身在画图中

冕嶽積翠

更にまた 高くもあふぐ 冕嶽 木ごとに春の みどりかさねて

2 零壇春晴(うだんしゅんせい)

「零壇」とは雨乞御嶽のことで、崎山町の南端の断崖上の高台に位置するが、視野が最も広く眺望も開けた勝地である。「零壇春晴」とは春雨の合間に雨乞御嶽の丘に登った時に、見下ろす風景の美しさを讃えている。

### 雫壇春望 新崎盛信(清堂)

青山列屏海横航 緑園鋪氎田綴秧  
此地風光吟不盡 描婦朝夕壁間望

### 雫壇春晴

雨に晴れて なほ目に近く 雫の 園に見下ろす  
春の海原

### 3 経台新荷(けいだいしんか)

「経台」とは、弁財天堂のことである。堂のたつ円鑑池は蓮の美しさが賞賛されていた場所であり、「新荷」とは蓮の若葉のことをいう。蓮の眺めもさることながら、澄み渡る池の眺めや水面に映し出される天女橋や堂の風景を賞賛している。

### 経台荷花 恩河朝恒

鳳凰城下梵宮傍 貼水新荷未放香  
待到花開紅千里 応邀睿賞納風涼

### 経台新花

濁りなき 心の水や かよふらむ 法の台(うてな)  
の露の蓮葉(はちすば)

### 4 龍潭夜月(りゅうたんやげつ)

ハントン山を背景にし、首里城の影をうつす龍潭を市中第一の景勝の地として讃えている。

### 龍潭夜月 汪楫(舟次)

海心秋月最分明 夾道還教列火城  
涼夜肯容輕露下 寒潭遮莫老龍驚

### 龍潭夜月

龍もさぞ 淵をはなれて いでやせん 波てる月の  
すめる今宵は

### 5 虎山松濤(こざんしょうとう)

「虎山」とは虎瀬山(虎頭山)のことである。城北の雄鎮にふさわしく松林が茂る場所だったとされる。「虎山松濤」とは紺碧の海波の音と聞き間違うくらい、虎瀬の丘の松林の梢がざわめいている様子を表現している。

### 虎山松濤 楊文鳳

石虎山頭夕照斜 松風颯颯拂殘霞  
幾回葉底琤●處 錯認濤聲入夜譁

※●=「王+宗」

### 虎山松濤

磯ならで 波立ちくると おぼろげば 虎やま松に  
あらし吹く也

### 6 崎山竹籬

王家の御用馬場であった崎山馬場は、きれいな竹籬が道の両側にならび、その竹の葉におく露が美しいことを讃えている。

### 崎山竹籬 尚育王

剪成緑竹護家旋 濃蔭如屏正及肩  
俗美何須堆石固 清風亦有滿村前

### 崎山竹籬

つくりなす 籬の竹の すずしさに ゆきていとはぬ  
崎山の里

### 7 西森小松

西森の丘は、「小松」と称されて虎瀬山と同様に松林となっていたようである。西方は那覇を眼下に見下ろし、遠い慶良間や久米島の島々が手にとるようにみえ、眺望が首里随一の場所であることを讃えている。

### 上江洲由具

浮世名に立ちゆる西森の小松  
千代の色ふかく並だるきよらさ ※

※『思い出の沖繩』より

### 蔡如霖

小松鬱々四時春 已覺蕭疎絶俗塵  
勿謂而今材短小 他年定作棟梁身

### 西森小松

千代ふべき 影こそあかね ふかみどり そむる小  
松の しげる西森

### 8 万歳嶺夕照

万歳嶺とは観音堂のある丘である。首里の最西端に位置し、那覇付近の風景を見ることができる。

夕暮れに観音堂の森を訪れると、真っ赤な日輪は四方に後光を発し、赤や黄に焼けて去来する雲は美しい。時々刻々変幻するながめを讃えている。

### 豊平良金(容齊)

穿松登処以登天 四面雲山眼底連  
万歳伝名口鎮国 神風吹過翠微巔

### 万歳嶺夕思

夕日さす 嶺の暑さは しのばれん 万歳といふ  
その名したひて

1 **3)暮らしのレイヤー**

2 **①産業化した琉球文化(泡盛・伝統工芸等)**

3 **■泡盛**

- 4 • 湧水の豊富な首里杜地区では、泡盛の製造が行われ  
 5 た。琉球王府は、泡盛の品質保持のため、首里三箇  
 6 (鳥堀町、赤田町、崎山町)でのみ泡盛の製造を許  
 7 可し、厳しい管理下においていた。  
 8 • 廃藩置県後、酒造りの免許制がはじまり民間でも泡  
 9 盛が製造されるようになり、各地に酒造所が広がっ  
 10 た。沖縄戦で泡盛業界も大きなダメージを受けた  
 11 が、戦後に復活。首里杜地区では2つの酒造所が現  
 12 在も営業を続けている。



出典: 沖縄県酒造組合公式ホームページ

17 **■伝統工芸**

- 18 • 琉球王国時代に貿易立国を国是として栄えた沖縄は、諸外国の影響を受けて種々の工芸を生み  
 19 出した。これらの工芸は、王城の城下であり、また那覇港があった首里・那覇を中心にして発  
 20 展し、今日まで受け継がれている。紅型や首里の織物は、国指定重要無形文化財となっている。  
 21 これらの工芸や、紙漉きなどのその他生業が発展した背景には、湧水が豊富な地域であったこ  
 22 とが影響していた。  
 23 • 紅型や織物など伝統工芸を発展させ、現  
 24 代の暮らしにあった商品が生み出されて  
 25 いるほか、染織体験など観光とも結びつ  
 26 いている。  
 27 • 琉球びんがた事業協同組合と那覇伝統織  
 28 物事業協同組合が、国と那覇市の支援を  
 29 受けて整備中の「首里染織館 suikara」  
 30 は、2022 (令和4) 年5月にオープンし、  
 31 着尺や帯の販売、製作体験、着付けサー  
 32 ビス、沖縄の染織の紹介展示、観光情報  
 33 発信などの機能を備える予定である。



出典: 那覇伝統織物事業協同組合ホームページ

34  
35

## 1 ②景観形成の取り組みによるまちなみづくり

### 2 ■都市景観形成地域への指定

- 3 • 那覇市では、景観条例に基づき、特に地域の特性を活かした景観形成が必要な地域として、伝  
4 統的な建築物などが一体をなしてその区域の特色をあらわし、都市景観を形づくっている地域  
5 や、これから都市景観の形成のために計画的に整備していく必要がある地域などについて、都  
6 市景観形成地域として指定し、都市景観形成基準などを定めている。
- 7 • 首里杜地区では下記の2地区が都市景観形成地域に指定されており、赤瓦や琉球石灰岩などを  
8 活用した特徴的な景観の形成が進められてきた。これらの地区では、赤瓦葺きの屋根工事（大  
9 規模修繕含む）と琉球石灰岩の石積み・石張り、木材による修景工事費について助成を実施し  
10 ている。

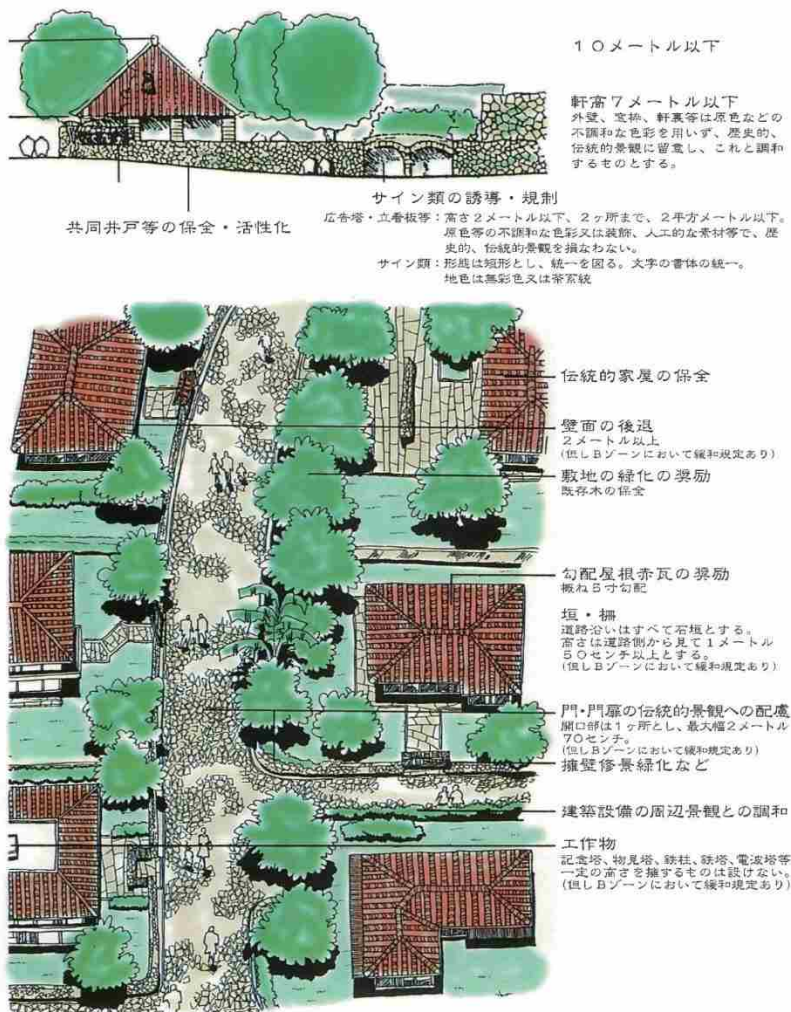
#### 11 首里杜地区内の都市景観形成地域

- 12 ➤ 首里金城地区都市景観形成地域  
13 ➤ 龍潭通り沿線地区都市景観形成地域

#### 14 追加指定を検討中の地域

- 15 ➤ ニシカタ地区  
16 ➤ 首里三箇地区

## 17 都市景観形成イメージ



40 出典：「首里金城地区都市景観形成地域パンフレット」(那覇市)

## 1 ■歴史的風致をいかした街路等の整備

- 2 • 那覇市では、首里城の復元の機運が高まった 1982（昭和 57）年頃から、周辺地域の歴史的風
- 3 致をいかしたまちづくりに取り組んできた。
- 4 • また、那覇市では各種街路事業や「歴史散歩道整備事業」、「交流オアシス整備事業」などによ
- 5 る空間づくりにも取り組んでいる。



崎山馬場コミュニティ広場



赤田北線



龍潭広場

## 14 ③戦争と戦後の復興

### 15 ■10・10 空襲

- 16 • 1944（昭和 19）年 10 月 10 日、アメリカ軍は南西諸島全域に空襲を行った。この空襲による
- 17 那覇市の被害は、死者 225 人、負傷者 358 人で、焼夷弾攻撃により全市域の 90%近くが焼失
- 18 した。

### 20 ■第 32 軍司令部壕

- 21 • 1944(昭和 19)年 3 月、南西諸島の防衛を目的に第 32 軍が創設された。同年 12 月、司令部壕
- 22 の構築がはじめられ、沖縄師範学校など多くの学徒や地域住民が動員された。1945(昭和 20)
- 23 年 3 月、空襲が激しくなると、第 32 軍司令部は地下へ移動し、米軍との決戦にそなえた。
- 24 • 司令部壕内には、牛島満軍司令官、長勇参謀長をはじめ総勢 1,000 人余の将兵や県出身の軍
- 25 属・学徒、女性軍属などが雑居していた。戦闘指揮に必要な施設・設備が完備され、通路の両
- 26 側には兵隊の二、三段ベッドが並べられていた。壕生活は立ちこめる熱気と、湿気や異様な臭
- 27 いとの戦いでもあった。
- 28 • 壕内は 5 つの坑道で結ばれていたが、現在、抗口は塞がれ、中に入ることはできない。

### 30 ■戦後の首里の復興、文教のまち

- 31 • 沖縄戦後の首里の復興は、1945（昭和 20）年 12 月 14 日の首里建設先発隊の派遣に始まる。
- 32 徐々に人が戻っていき、瓦礫を整理し、石垣を積みなおし、バラックを建て、最小限の衣食住
- 33 を確保しながら首里を復興させていった。翌年には市役所も再開された（現首里中学校隣接
- 34 地）。
- 35 • 1950（昭和 25）年 5 月、首里城跡に琉球大学が設立される。琉球大学はその後、1984（昭和
- 36 59）年に現在のキャンパスへと移転した。
- 37 • 1954（昭和 29）年 9 月に、那覇市との合併により那覇市に編入。編入後、首里の名を残そう
- 38 と、元の首里市域の町は、首里を冠した住所表示となった。
- 39 • 首里の人々を中心に、守礼門など文化遺産の復興の動きが高まり、1957（昭和 32）年に園比
- 40 屋武御嶽石門、1958（昭和 33）年に守礼門、1968（昭和 43）年に弁財天堂・円鑑池などの復
- 41 元が進んだ。

- 1 • 1965（昭和 40）年から翌年にかけては、中城御殿跡地に琉球政府立博物館（1972 年の本土復  
2 帰に伴い沖縄県立博物館に改称）が建設される。博物館は 2007（平成 19）年におもろまちへ  
3 移転した。  
4 • 1972（昭和 47）年に本土復帰し、沖縄県となる。

5  
6

#### 7 ④“記憶”に生きる首里

##### 8 ■琉球王朝祭り首里(首里文化祭)

- 9 • 琉球王朝祭り首里は、11 月 3 日（文化の日）に開催され、「国王御三ヶ寺参詣行列」を再現し  
10 た古式行列や、旗頭・祝賀パレードが行われる。  
11 • 1960 年に始まった「首里教育祭り」が発展し、「首里文化祭」を経て現在の名称になった。地  
12 域によるイベントで、50 年以上の歴史を持つ。龍潭通りで行われる古式行列や旗頭のパレー  
13 ドは、地域の子どもたちをはじめ参加者にとって古都首里の魅力を体感する機会となっている。

14  
15

##### 16 ■新たな“記憶”

- 17 • 1950（昭和 25）年には、首里劇場が誕生。現存する最古の劇場となっている。  
18 • この頃には、地域住民が主体となって、県内初の淡水プールとされる首里プールの建設も行わ  
19 れている。首里プールは、有志による建設委員会が設立され、寄付金と手弁当による児童生徒  
20 の勤労奉仕等、行政の枠を越えた「手作りプール」として 1952（昭和 27）年誕生。その後首  
21 里市へ移管され、市営プールとして運営された。1994（平成 6）年閉鎖。  
22 • 首里杜地区についての“記憶”は、現在も日々新たに創出されている。特に子どもの頃に遊ん  
23 だ場所や体験したこと、日常生活におけるお気に入りの場所などは、地域への愛着を生み、シ  
24 ビックプライドの創出につながっている。

25  
26  
27



## 1 (2)首里杜地区整備基本計画で目指す姿

2 (1) で整理した 3 つのレイヤーに象徴されるように、首里杜地区は、自然や歴史を基盤にし  
 3 た首里の人々の営みによって形づくられてきた。沖縄戦などの被害を受けながらも、歴史・文化  
 4 を受け継ぎ、新たなまちを形成してきた活力は、首里に住む人々や関係する人々の古都首里への  
 5 誇りと愛着によって生み出されていると考えられる。このような自然・歴史・暮らしが調和する  
 6 首里らしいまちに、100年後まで住み続けられる持続的なまちづくりを目指す。

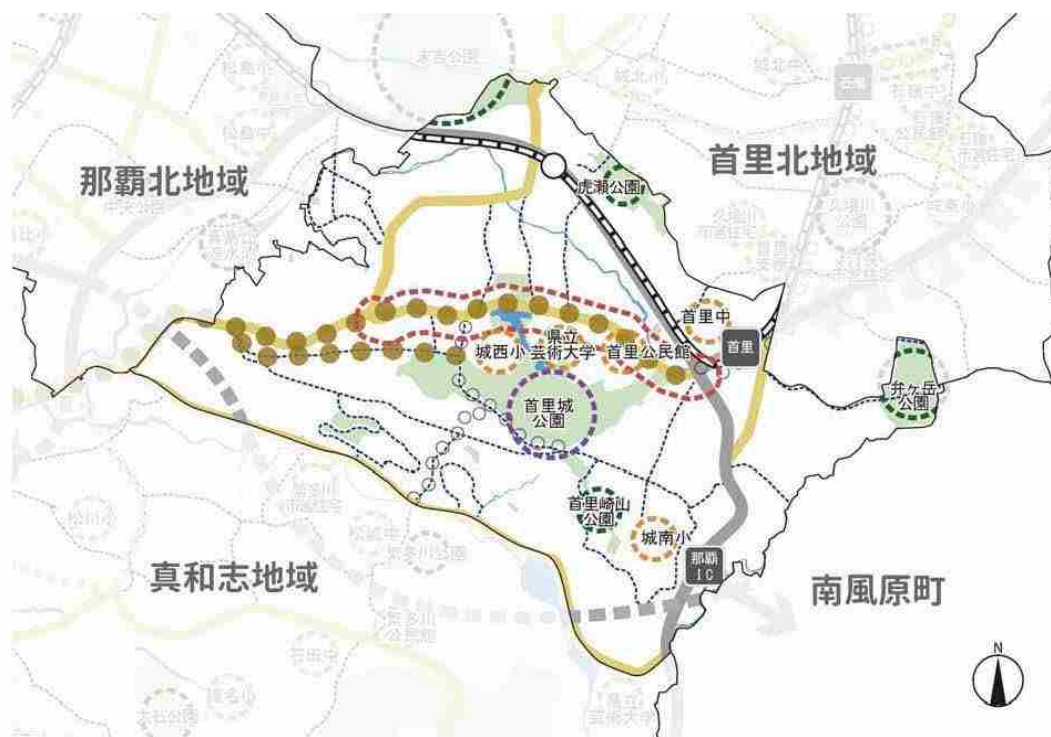
7 なお、ここで示した考え方は、これまでも那覇市都市計画マスタープランなどにおいて示され  
 8 てきた方向性と同じものである。また、沖縄県の「新たな振興計画（※素案）」や「第 6 次沖縄  
 9 県観光振興基本計画（※現在策定中）」等においても、「歴史文化を感じる景観まちづくり」や  
 10 「世代を超えて自然・歴史・文化と人を紡いでいく島」というキーワードで、同様の方向性が示  
 11 されている。

12 これらを踏まえて、改めて首里杜地区整備基本計画で目指す姿を文章化すると、次のとおりで  
 13 ある。

首里城を中心とした古都のたたずまいと、それを形づくる自然・歴史・文化と、そこに息づく人々の  
 営みや賑わいを、住民も来訪者も感じることができる、持続可能な首里杜地区

### 16 (参考)「那覇市都市計画マスタープラン」における首里地域の「地域の将来像」

17 首里城を中心とした地域に残る文化財や御嶽、樋川などの数多くの歴史・文化遺産、地形や水系などの自  
 18 然環境の保全・活用を図ります。また、首里城の城下町として歴史的な環境に配慮した景観形成を進めると  
 19 ともに、琉球泡盛や紅型などの琉球王国時代から受け継がれてきた伝統産業などを、まちづくりの視点から育成  
 する環境整備を図ります。首里らしい趣と落ち着きのある住環境の形成を図るとともに、観光拠点のにぎわいを  
 地域全体へ誘導することで、回遊性のある魅力的な歴史と文化の薫る首里のまちづくりを進めます。



出典：「那覇市都市計画マスタープラン」(那覇市都市みらい部 都市計画課、2020年3月)

1 (参考)「新たな振興計画(素案)に対する答申」における首里杜地域に関連する記述

2 (5)悠久の歴史や伝統文化に育まれた魅力ある空間と風土の形成

3 ア 首里城の復興

4 ②首里城公園の管理体制の強化と首里杜地区の歴史まちづくりの推進

5 首里城公園の特性や想定される様々な出火要因等を踏まえた新たな防火対策等の実施や公園全体の防  
6 火対策の強化を図り、国や関係機関と連携した再発防止策の策定及び安全性の高い施設管理体制の構築  
7 により、二度と火災により焼失を生じさせないよう取り組みます。

8 また、首里城を中心とした首里杜地区において、「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの実現に向けて、行  
9 政・有識者・住民・企業等の関係者が連携して、自然・歴史・文化を感じる景観の創出に取り組みます。

10 さらに、県営公園内の中城御殿跡や円覚寺跡等の歴史文化遺産の計画的な整備や、歴史・文化を体験  
11 できる行催事等を推進し、首里城公園の魅力の向上を図るとともに、地域に点在する文化資源の段階的な整  
12 備について、事業主体や保存に係る調査等の課題解決に向けて、那覇市、国と連携して実現可能な方策や  
13 観光資源としての利活用の検討に取り組みます。

14 加えて、観光交通の分散化を促す取組及び大型バス駐車場やパーク・アンド・ライドの推進等による観光客の  
15 受入環境の整備、龍潭線及び周辺道路の無電柱化や道路整備による交通環境の整備、公共交通網の充  
16 実やICTを活用した情報提供による歩行者中心で快適な道路空間の創出に取り組みます。

17 出典:「新たな振興計画(素案)に対する答申」(沖縄県振興審議会、令和4年1月)

## 2. まちづくりの課題

前述の「首里杜地区整備基本計画で目指す姿」を実現するために必要な課題を、これまでの取り組み成果や現在の社会動向を踏まえ、以下の通り整理した。

### 課題① 市街地形成における首里杜らしさの再構築

首里杜地区では歴史的な都市構造が継承されており、それが重要な特性であるが、その一方で都市基盤整備が進められ、また建物の更新が進む中、まちの特徴が見えにくくなっている状況がある。那覇市の景観まちづくり施策による誘導が成果を挙げているものの、制度上の限界がある。

特に近年は高い不動産需要を背景に、集合住宅の増加や高層建築も見られ、またこれまで残されていた斜面緑地が開発される例も増えていることで、歴史的なまちなみや景観への影響が懸念されるとともに、首里杜らしさの基盤である水や緑が失われつつある。

景観は地域の共有財産であることを地域住民とともに改めて確認したうえで、市街地における住環境を向上させる整備や更新と景観形成を両立させつつ、首里杜の特性を生かしたまちづくり方策や有効な制度の導入が課題である。



### 課題② 歴史文化資源の継承

これまでに、首里城公園内を中心に主要な歴史的建造物や歴史的環境の整備が進み、2000年には世界遺産登録もなされ、琉球の歴史文化の拠点、シンボルといえる空間が再生されてきた。2019年10月31日の首里城火災で正殿等が失われたものの、首里城復興の気運が高まり、正殿等の復元整備が急がれているほか、停滞していた中城御殿跡や円覚寺跡など首里城公園内の復元整備事業も進行している。また公園外でも、歴史的庭園の復元や歴史の道整備、主要な共同井戸の修復整備など、歴史的資源の整備が進みつつある。こうした整備は引き続き推進する必要がある。

一方、これら歴史資源をつなぎ、活用するしくみはまだ十分とはいえず、貴重な資源を生かし切れていない状況もある。また、地区内に多数存在する身近な歴史文化資源には顕在化していないものも多く、その存在や価値が十分知られないまま、失われていきかねない懸念もある。

首里杜地区では地域活動が活発であり、地域住民によって有形・無形の文化遺産の継承が良好になされてきたが、高齢化の進行や自治会加入者の漸減、次世代を担う子供たちが歴史文化に触れる機会が少なくなっていることなどにより、歴史文化資源の維持管理や継承も課題となっている。



未整備の御茶屋御殿跡



伊江殿内庭園

1

2 **課題③ 持続的なまちづくり**

3 まちはそこに住まい活動する人々の営みによって創られ、息づくものであり、地域のくらしが  
4 あってこそ訪れる人々にとっても魅力的なまちとなる。

5 首里らしいまちづくりは、表面上の形態を整えるだけでなく、暮らす人が首里らしさに誇りを  
6 持つことができ、首里に住まうことの良さを実感できる、くらしの価値を高めるまちづくりであ  
7 る必要がある。また、地域の活力の面では、地場産業をはじめ地域の産業がなりたち、歴  
8 史文化を活かしたまちづくりが暮らす人にとっての資産となることも必要である。高低の多い地  
9 形や生活インフラ施設の状況などから、高齢化社会における生活維持面の問題も生じている中、  
10 住み続けられる環境づくりやレジリエンスの視点も課題となっている。

11 ライフスタイルの変化に対応した快適で安全・安心なまちと、首里杜ならではの他の地域には  
12 ない歴史のまちづくりの両立が求められる。

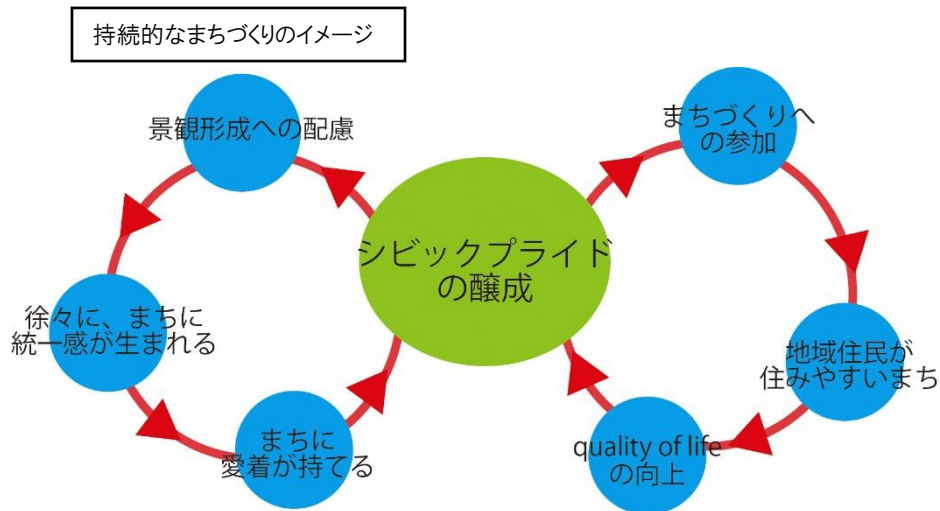
13

14

15

16

17



1 **課題④ 観光と地域振興の共存共栄**

2 首里杜地区を訪れる観光客は、沖縄県の観光入域者の増加に伴い、年々増加してきた。現在は  
3 新型コロナウイルス感染症の影響により入域観光客数が大幅に減少しているものの、今後の動向  
4 としてはいずれ回復すると予想される。

5 首里杜地区は沖縄の歴史文化を象徴し、またそれを体感できる空間として、本県の観光の重要  
6 拠点であるが、多くの観光客を受け入れる環境づくりが不十分であることや、多くの観光客が首  
7 里城のみの見学にとどまり、首里杜地区の地域振興につながりにくいなどの問題が指摘されてし  
8 ている。

9 コロナ禍において、沖縄県の目指す観光のあり方も、これまでのように入域客数の増加のみで  
10 はなく、サステナブルツーリズムやレスポンシブルツーリズムという新たな視点が重要視される  
11 なかで、首里杜地区を訪れる観光客にとっても、地域住民や事業者にとっても望ましく、地域振  
12 興に寄与する観光のあり方が求められている。

13 サステナブルツーリズムのイメージ

地域の「環境」を守る・育む	地域の「文化」を守る・育む	地域の「経済」を守る・育む
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境資源を最適な形で観光に活用している事例を情報発信</li> </ul> <p>→自然や生物多様性の保全等に貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の有形無形の伝統・文化資産等を魅力ある形で海外に発信</li> </ul> <p>→外国人旅行者による体験等を通じて、伝統・文化の保存・継承に貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本全国各地への外国人旅行者の安定した誘客・滞在の促進</li> <li>・地域ならではの体験や特産品等の購入促進</li> </ul> <p>→地域経済の活性化と安定的・長期的な雇用を創出し、住んで良し・訪れて良しの地域づくりに貢献</p>

14 出典：『SDGs への貢献と持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)の推進に係る取組方針』(日本政府観光局)

16 **課題⑤ 交通の適正化**

17 首里杜地区は、浦添市や西原町、与那原町などと那覇市中心部とを結ぶ交通アクセスの要衝で  
18 あり、那覇糸満線や那覇北中城線などの交通量の多い路線が位置していることから、通過交通が  
19 多く発生し、地区外周の主要交差点では渋滞が慢性化している。

20 また、首里杜地区はモノレールや路線バスを含め、公共交通網が比較的整っている状況にある  
21 もの、首里杜地区へ訪れる観光客の交通手段はレンタカーや観光バスが中心となっている。近  
22 年の観光客の急激な増加も重なり、首里城周辺を中心とした突発的な渋滞や、生活道路へのレン  
23 タカーの迷い込みなども発生し、地域住民の日常生活への影響が問題となっている。

24 これらの問題を生む要因は多岐にわたるため、多様な観点から解決に向けて取り組み、住民・  
25 観光客を問わず、車に頼りすぎないだれもが快適に移動できる交通環境や仕組みを整えていくこ  
26 とが課題である。



池端交差点の渋滞

27

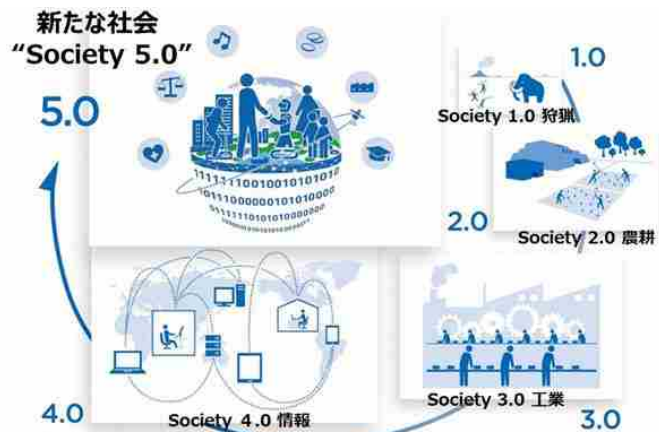
1 **課題⑥ 新たな技術の活用**

2 現在は、新しい情報技術を背景に  
3 society5.0 へ移行する大きな社会変革  
4 の時期といわれている。

5 少子高齢化や人口減少、社会インフ  
6 ラの維持、脱炭素化、with コロナなど  
7 の社会状況を背景に、まちづくりのあ  
8 り方も変化していくが、その際には時  
9 代に応じた新たな情報技術の有効な活  
10 用が不可欠である。

11 また国・自治体・企業などが連携し  
12 て DX (※1) を推進する動きが急速に  
13 進んでいる。DX の推進は、首里杜地  
14 区における様々な問題を解決する上でも欠かせない取組であるといえる。

15 ※1:Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション。進化した IT 技術を浸透させることで、人々の生  
16 活をより良いものへと変革させるという概念。



出典:内閣府ホームページ

19 **課題⑦ 地域住民が主役となる推進体制の確立**

20 首里杜地区は、沖縄戦からの復興の過程において、守礼門をはじめとした歴史文化資源の保存  
21 活動や、首里教育祭り（現在の王朝祭り首里）の開催、首里プールの建設など、住民により、  
22 様々なまちづくりが行われてきており、地域への誇りや愛着が強く、いわゆるシビックプライド  
23 が醸成されてきたといえる。

24 本計画の目指す姿の実現にあたっては、首里杜地区の住民のシビックプライドを継承および普  
25 及するとともに、国・県・市などの行政機関、関係事業者、専門家といった多様な主体が参画し、  
26 地域住民が主役となるまちづくりを支援する体制づくりが求められる。また、それら関係者が緊  
27 密に連携し、計画の進捗を管理し着実に進める、実効性のある仕組みをつくる必要がある。



地域青年会による旗頭の演舞

出典:首里城復興基本計画



住民参画によるまちづくりの推進

出典:首里城復興基本計画

### 3. 基本方針及び施策体系

前述の1.特徴及び目指す姿、2.まちづくりの課題を踏まえ、長期的な視点として首里杜地区の整備に関わる基本方針を以下の通りとする。

#### (1) 古都首里を感じる景観の創出

##### ① 良好な景観形成の推進

首里は風水に基づき建設された都市であるといわれ、弁之御嶽を頂点とし、虎瀬山（虎瀬公園）から末吉に連なる丘陵により骨格が形成されている。現在、末吉公園や虎瀬公園、弁ヶ嶽公園に残る緑の稜線は、かつての首里八景にも謳われた眺望景観を垣間見ることができる。

また、琉球王朝時代には御殿や殿内が立ち並んでいた龍潭通りは、那覇市の都市景観形成地域に指定され、道路拡幅に合わせ、赤瓦を中心とした建築物ファサードの表情が整いつつある。同じく都市景観形成地域に指定されている首里金城地区は、細街路の整備と併せて、石畳道や、屋敷林、屋敷囲いとしての石垣が保全・再生されている。

これら首里杜地区を特徴づける要素については、眺望点や視対象の保全・創出、石畳道、石垣、屋敷林などの昔ながらの集落形態の保全や修景、龍潭通りなど地域の顔となる道路やスージグワの特色ある整備などを推進し、良好な景観形成を推進する。



出典：那覇都市マスタープラン

##### ② 水と緑の保全・再生・活用

首里杜地区は、浸透性のある琉球石灰岩により構成され、石灰岩層を通過し泥岩層との間に地下水として貯留された雨水が、豊かな湧水として地区内の至るところで水を湛えている。これら豊富な湧水は、かつて飲料水や生活用水として住民の生活を支えてきただけでなく、泡盛・染織物など、伝統産業の発展にも大きく影響を及ぼしてきた。しかし、市街化に伴う雨水の浸透面積減少等により、雨水の地下浸透量が減ることで、湧水の水量に影響が出ることが懸念されている。

よって、首里杜地区に数多く残る湧水は、貴重な自然環境として保全、再生のほか、生活用水としての中水利用や歴史文化資源としての活用を図り、古都首里の環境や景観などを支える緑地についても保全・再生に努める。



1

2

3 **③協働の景観づくりの推進**

4 景観は、脈々と受け継がれた地域の生活や生業により形づくられるものであり、特徴的な景観  
 5 は暮らす人にとって誇りと愛着に繋がる。

6 首里杜地区は、沖縄戦からの復興を通じて、地域住民が主体となったまちづくり活動などを通  
 7 じてシビックプライドが醸成されており、これらの地域の素地を活かし、地域住民が主役となる  
 8 景観づくりを進める。また、地域住民のほか、行政や関係事業者、大学など多様な主体が参画し、  
 9 地域住民の景観形成に対して、人的、技術的な支援が行える体制づくりに努める。



出典:NPO 法人首里まちづくり研究会(すいまち研)ホームページ



出典:那覇都市マスタープラン

10

11

12



## 1 (2)歴史文化資源等の保全・整備・活用

### 2 ①幅広い歴史文化資源の再評価と保存・活用

3 首里杜地区においては、世界遺産首里城跡やその城下町として発展してきた固有の歴史と、伝  
4 統を反映した人々の活動や、その活動が行われてきた数多くの歴史文化資源とその周辺の住宅地  
5 とが一体となって、市街地が形成されてきた。

6 これら市街地に存在する歴史文化資源については、これまで新たな文化財の指定などを進め、  
7 保存、活用を推進してきたところであるが、文化財の指定・未指定の別にかかわらず、特に首里  
8 杜地区の近現代の暮らしのなかで培われてきた民俗や風習、いわれのある場所なども含めて幅広  
9 く捉え、再評価を行うとともに、これら資源の周辺環境も含めて総合的な保存・活用に努める。



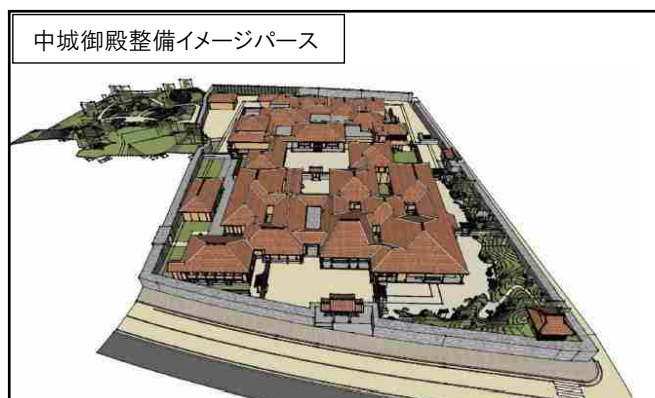
10

11

### 12 ②拠点資源および周辺の保全・復元・整備

13 令和元年10月31日の火災により焼損した首里城正殿を含む建物8棟は、令和8年の正殿復元  
14 やその他の復興に向けて現在着々と取り組みが進められている。首里杜地区には、首里城以外で  
15 も、琉球王朝時代の中城王子の邸宅であった中城御殿や、第二尚氏王統歴代国王の菩提寺であっ  
16 た円覚寺、迎賓館として使用されていた御茶屋御殿、琉球王家の有力家臣である伊江氏の居館の  
17 庭園である伊江殿内庭園など重要な建造物が存在していたが、沖縄戦により焼失した。

18 これらの首里杜地区の拠点資源となる建造物や施設などについては、その周辺も含めて保全、  
19 復元、整備を推進する。



20

21

出典：首里城復興基本計画

1 **③歴史文化資源の魅力向上・活用や新たな資源の創出**

2 首里杜地区には、首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵の3つの世界遺産や、国指定文化財であ  
3 る首里金城の大アカギ、県指定文化財である首里金城町石畳道などの多くの指定文化財があるほ  
4 か、指定文化財ではないものの、地域住民の信仰の拠り所として御嶽、拝所、樋川、泡盛の酒造  
5 所や琉球紅型や首里織の工房など、数多くの歴史文化資源がある。

6 また、歴史文化資源に限らず、地域住民によるまちづくりと連動した特産品開発や魅力発信な  
7 ど、新たな資源を創出する取り組みも見られる。

8 歴史文化資源については、指定対象となっている文化財の指定に向けた取り組みを推進すると  
9 ともに、周辺環境と合わせた整備を進め、魅力の向上を図る。また、地域住民との協働により、  
10 歴史文化資源に限らない新たな資源の創出を図る。なお、これら歴史文化資源等の周遊観光への  
11 活用においては、地域住民の生活に十分に配慮する。

12  
13  
14  
15  
16



出典:NPO 法人まちづくり研究会(すいまち研)ホームページ

### 1 (3)暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり

#### 2 ①暮らしと観光の両面からの交通環境の最適化

3 首里杜地区においては、交通渋滞や観光車両の過集中などがあり、地域住民の日常生活への影  
 4 響が問題となっている。そのほか、首里杜地区是那覇市の他の地区と比較して高齢人口の比率が  
 5 高く、今後も高齢化が進行すると予想されることから、車に頼りすぎない交通環境の形成も必要  
 6 となる。

7 これらの交通問題の解決については、観光客の公共交通利用促進、観光バスやレンタカーの交  
 8 通需要と供給の最適化など、総合的な交通マネジメントを実施し、観光 2 次交通による地域住民  
 9 の生活への影響の低減に努める。また、観光客の地区内の周遊の際の移動や、地域住民の日頃の  
 10 買い物などにも利用できる交通サービスの充実を図り、地域住民と観光客双方が快適に移動でき  
 11 る交通環境の形成を図る。



那覇市 宿泊施設内の事例

出典:那覇市自転車ネットワーク計画



真和志地域乗合タクシー

出典:那覇市ホームページ

12

13

#### 14 ②安全・安心で歩いて楽しい快適な市街地の形成

15 首里杜地区は、スージグラーなど昔ながらの道路形態が良好な景観を形成している一方で、幅  
 16 員 4m 未満の道路も多く、魅力的なスージグラーの保全と生活環境の向上の両立が課題である。  
 17 また、年間約 280 万人の観光客が訪れる首里城公園エリアに対し、多くの歴史文化資源が残る周  
 18 辺市街地への散策はあまり見られず、周遊を促す取り組みも課題となっている。

19 首里城公園をはじめとした地区内の主要拠点間やモノレール駅と主要拠点を結ぶ道路について  
 20 は、ゆとりのある歩道確保や無電柱化、緑陰、交流スペースなど憩いの空間の創出、公共交通や  
 21 自転車など多様な移動手段の確保、MaaS による移動支援などにより、地域住民や観光客にとっ  
 22 て快適なゆとりある市街地を形成する。また、地域の生活道路については、地域住民の生活環境  
 23 向上や、安全・安心の確保を最優先にし、スージグラーなどの魅力を活かしつつ道路整備を図る。



スージグラーの整備事例(崎山町)



龍潭広場

1 ③伝統産業の継承や新たな賑わいの創出

2 首里杜地区は、王朝文化として花開いた琉球紅型や首里織の工房、泡盛の製造工場、琉球舞踊  
3 や沖縄空手の道場などが、現在も地区内に点在している。

4 また、龍潭通り沿道は、飲食や物販など観光客向けの施設が立地し、近年では、琉球びんがた  
5 事業協同組合と那覇伝統織物事業協同組合の共同事業として新たに首里染織館 **suikara** の整備も  
6 進められている。

7 本地区に生き続ける伝統産業の継承や新しい産業の育成などを促進し、観光や交流のスポット  
8 として賑わいにつながる環境の形成を図るほか地域の暮らしを支えるサービス施設の充実や、居  
9 住環境の維持・向上を図る。



出典：沖縄県酒造組合公式ホームページ



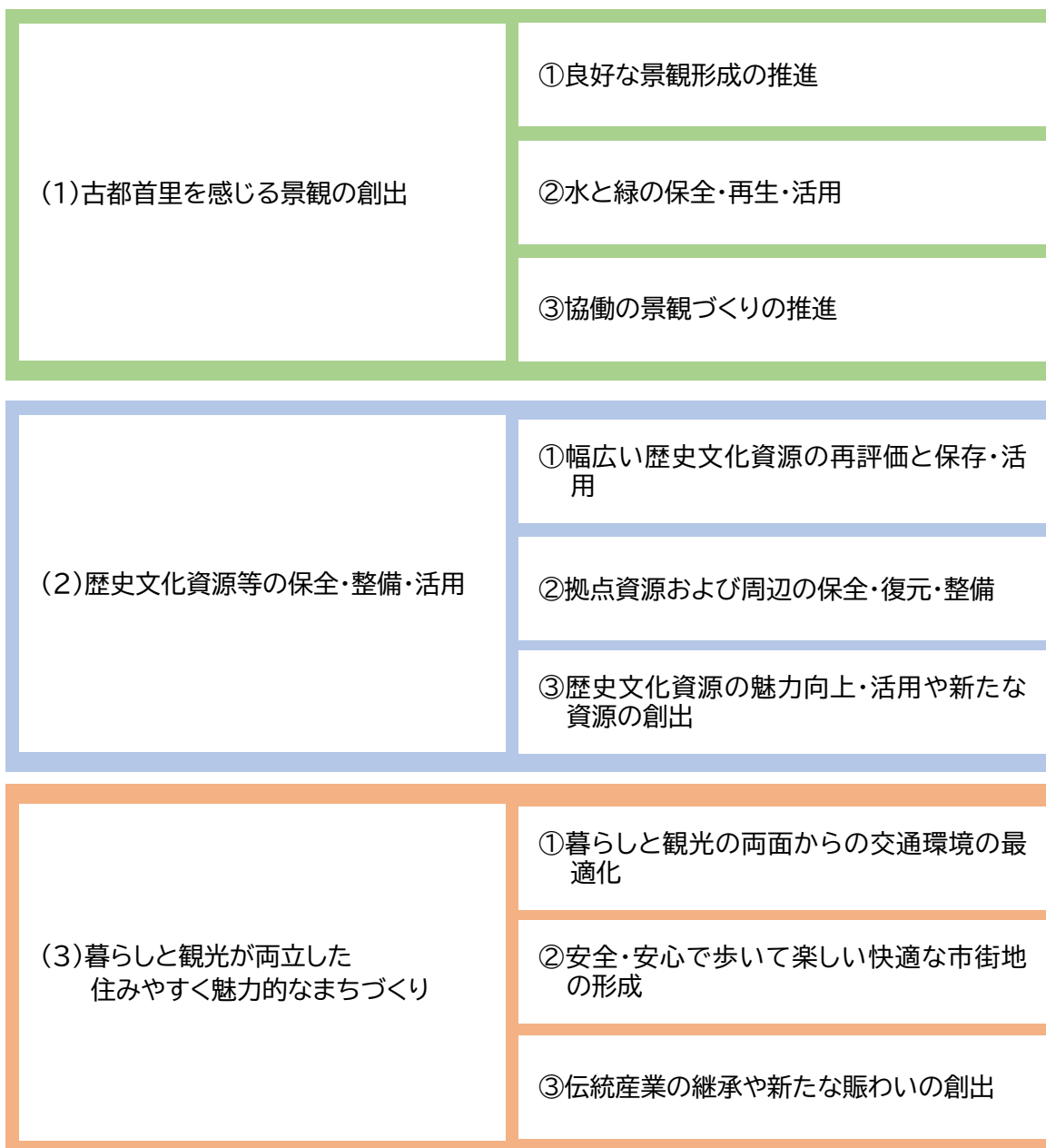
出典：那覇伝統織物事業協同組合ホームページ

11

12

1 ■基本方針および施策体系図

2  
3  
4



# 第3章 整備基本計画(10年計画)

## 1. 計画期間における到達目標

前章においては長期的視点として基本方針と施策体系を整理した。ここでは、基本方針に基づき、整備基本計画の計画期間である10年後の到達目標を定める。

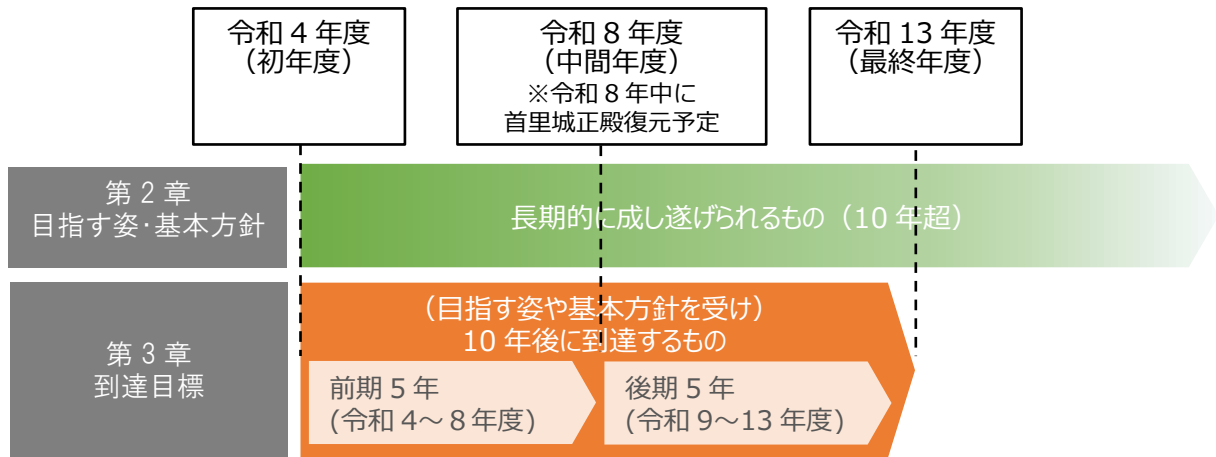


図: 第2章と第3章の期間の違い

### (1)「古都首里を感じる景観の創出」に向けた到達目標

これまでの取り組みの継続とともに、これからのまちづくりを誘導する計画・制度の導入を目指す。

#### ①「良好な景観形成の推進」に向けた新たな地域指定や継続的運用

都市景観形成地域における修景整備への助成制度の継続や、ニシカタ地区、首里三箇地区などにおいて新たな地域指定に向けた調査を実施するとともに、地域指定および運用を目指す。

また、地区に残る良好なスーヅグラーを生かし、特色ある道路整備事業を実施する。

#### ②「水と緑の保全・再生・活用」に向けた取り組み

首里杜地区の環境基盤である斜面緑地の保全やまちなかの緑の創出のため、地域住民主体の緑化活動への支援、景観形成と連携した市街地緑化の推進を図るとともに、緑に関する地域地区や制度の導入可能性などを検討する。また、研究機関や地域住民との協働による井戸や湧水の調査や活用、公共空間における緑の整備や植栽管理の充実などについて検討する。

#### ③「協働の景観づくりの推進」にかかる体制づくり、制度の拡充

協働の景観づくりにむけて、地域住民や行政、関係者、専門家などが参画し、景観づくりに関する情報共有や議論などを行える体制を構築するとともに、地域住民などが首里の景観やまちづくりに関心を持ち、かつ愛着を深められる人的、技術的な支援制度を継続、拡充する。

1 **(2)「歴史文化資源等の保全・整備・活用」に向けた到達目標**

2 首里城正殿は令和 8（2026）年の完成が予定されており、周辺の歴史文化資源の整備もこれを  
3 踏まえ、10 年間の計画期間内にある程度集中して環境整備することを目指す。

4 **①幅広い歴史文化資源の再評価と保存・活用に向けた取り組み**

5 指定・未指定のみならず、首里杜地区に受け継がれてきた民俗や風習、いわれのある場所な  
6 どについて、地域住民との協働により調査、再評価できる取り組みを実施するとともに、その  
7 結果をもとに、地域の歴史文化資源の保全・活用に関する様々な事業の展開が可能となるよう  
8 な下地づくりを目指す。

9  
10 **②中城御殿、円覚寺跡など「拠点資源および周辺の保全・復元・整備」の推進**

11 中城御殿、円覚寺三門、伊江殿内庭園など主要な拠点の復元整備や、関連する松崎馬場や世  
12 持橋などを含む龍潭周辺の一体的な整備を目指す。御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の  
13 段階的整備については、事業主体や保存に係る調査等の課題解決に向け、那覇市、県、国で連  
14 携して実現可能な方策等の検討を進める。

15  
16 **③歴史文化資源の魅力向上・活用や新たな資源の創出**

17 首里杜地区内の歴史文化資源のうち、指定対象となっている文化財の指定に向けた調査を実  
18 施するとともに、必要に応じて修景などを実施する。

19 また、住民主体のまちづくりと組み合わせた新たな資源の発掘や、情報発信などを実施する。

20  
21 **(3)「暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり」に向けた到達目標**

22 地区内の交通渋滞緩和、歩行者の安全性を確保し、ゆとりある歩道や交流スペースの確保など  
23 交流を促進する道路整備などを進め、暮らしと観光の両面からの交通環境最適化を目指す。

24  
25 **①暮らしと観光の両面からの交通環境最適化**

26 公共交通の利用促進や首里杜館駐車場や周辺駐車場を含めた満空情報の発信、パークアンドラ  
27 イドの推進などによる観光交通の分散化を目指すとともに、観光客や地域住民の地域内移動の利  
28 便性に資する交通サービスの充実に向け検討を進める。

29 また、主要交差点の渋滞緩和や大型バス駐車場などの観光客の受入環境の整備を図るとともに、  
30 首里の観光のあり方について、地域と連携してサステナブルやレスポンシブルツーリズムなどの  
31 視点を踏まえた検討を行い、首里杜地区の総合的で持続可能な交通・観光マネジメントを推進す  
32 る。

33  
34 **②安全・安心で歩いて楽しい快適な市街地の形成**

35 首里城公園までの主要なアクセス道路である龍潭線の無電柱化や歩道整備、緑陰やポケットパ  
36 ーク整備などを進めるとともに、生活道路を中心に、景観にも配慮しつつ地域住民の生活利便性  
37 向上に資する道路整備やスクールゾーンにおける安全対策など安全・安心で快適な市街地の形成  
38 を推進する。

1

2 **③伝統産業の継承や新たな賑わいの創出**

3 地域に残る歴史文化資源や、琉球紅型や首里織の工房、泡盛の製造工場などの伝統産業、suikara  
4 など新たな拠点を活用した周遊観光を実施するとともに、新たな賑わいの創出や居住環境の向上  
5 に向けた検討や調査研究を行う。



## 2. 取り組みの抽出及び優先順位化の考え方

事業の必要性の視点として①地域性、②持続性、③固有性の3つの視点と、優先順位付けとして④緊急性、⑤事業成立性、⑥早期実現性の3つの視点、さらに⑦基幹性、⑧相乗効果の視点から評価する。

上記8つの視点から、4つ以上該当する事業を本整備基本計画の計画期間の取り組みとして抽出する。

	視点	考え方
事業 必要性	①地域性 (地域のニーズ)	・ 地域住民のニーズが高いもの(地域意見交換や、住民アンケートなどをもとに整理)
	②持続性 (アフターコロナ対応、環境への負荷軽減など)	・ ウィズ／アフターコロナの入域観光客数の回復を見据え、受け入れ態勢の改善に必要なもの ・ 環境への負荷軽減等、都市経営の持続性に寄与するもの 等
	③固有性 (首里らしさの発現)	・ 整備、導入を進めることにより、首里らしさを発現することができるもの 等 ※景観部会で検討している首里らしさや重点的に整備するエリア等も踏まえて整理。

+

	優先順位の視点	考え方
優先度	④緊急性	・ 現状で支障が出ているなど、対応が急がれるもの 等
	⑤事業成立性	【ハード整備の場合】 ・ 対象となりうる補助メニューがあるもの ※該当する補助メニューがないが、第1段階で必要性が高いと判断されるものについては、新たな制度研究などで対応を検討する。 【ソフト対策の場合】 運用改善等の対応や、既存制度や既存の枠組みの活用などにより対応が可能であるもの。 等
	⑥早期実現性	・ 調査、設計など、取り組みがすでに進んでおり熟度が高いもの ・ 関係機関協議などが進捗しているもの 等

+

	視点	考え方
基幹性・ 相乗効果	⑦基幹性	・ その事業がないと他の事業自体が進まないもの、目的が達成できないもの(基盤的整備、調査等) 等
	⑧相乗効果	・ 他の取り組みと連動させることで、より効果が得られるもの 等

8つの評価の視点のうち、4つ以上該当する事業を抽出

### 1 3. 抽出した取り組み一覧

2 2. の考え方により、抽出された取り組みは以下の通りである。(38 事業※再掲は除く)

方針	中項目	小項目	取り組み	No.	
(1) 古都首里を感じる景観の創出	①良好な景観形成の推進	ア.住民主体の景観づくり活動の促進	住民による修景整備(赤瓦、石垣、緑化等)への助成制度 (龍潭通り沿線地区、首里金城地区)	1	
			都市景観形成地域指定によるまちなみ誘導と修景整備への助成制度の拡充 (ニシカタ地区、首里三箇地区)	2	
		イ. 制度等によるまちなみの誘導	都市計画(景観地区、地区計画等)によるまちなみ保全(高さ、意匠等)	3	
		ウ. 景観に配慮した良質な公共空間の創出	無電柱化推進事業(県道 49・50 号線)	4	
	公共事業における景観アセスメント		5		
	首里大中・当蔵地区の歴史散策歩道の整備		6		
	首里金城地区街路整備事業		7		
	②水と緑の保全・再生・活用	ア.湧水の保全・活用	涵養機能の活用	8	
			湧水を活用したポケットパーク等の整備	9	
	③協働の景観づくりの推進	イ.緑の保全・再生	地区内緑化の推進	10	
			ア.地域人材の育成	沖縄らしい風景づくりに係る人材育成	11
	(2) 歴史文化資源等の保全・整備・活用	①幅広い歴史文化資源の再評価と保存・活用	ア.推進に向けた調査・計画の策定	歴史文化基本構想等の策定検討	13
				近現代の歴史文化資源(戦跡含む)の調査	14
				第 32 軍司令部壕保存・公開	15
②拠点資源および周辺の保全・復元・整備		ア. 歴史文化資源の保全・復元整備	中城御殿跡地整備	16	
			円覚寺三門復元工事	17	
			龍潭周辺整備(松崎馬場、世持橋等)	18	
			伊江殿内庭園保存整備事業	19	
			指定文化財周辺の環境整備	20	
③歴史文化資源の魅力向上・活用や新たな資源の創出		ア. 地域と協働による新たな文化資源の創出	地域資源の調査及び修景等	21	

方針	中項目	小項目	取り組み	No.
(3)暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり	①暮らしと観光の両面からの交通環境の最適化	ア.主要渋滞箇所の対策	渋滞ボトルネック対策	22
		イ. 駐車場マネジメント	首里杜館駐車場の大型バス予約制による平準化	23
			駐車場の満空情報の発信・誘導(首里杜館及び周辺駐車場)	24
		ウ. 公共交通の利用促進	パーク&ライドの推進(てだこ浦西駅、崎山P&R)	25
			乗合タクシー等のデマンド交通による移動手段の提供	26
			循環バス、シャトルバス等の導入促進	27
			MaaSの促進(シームレスな移動環境の提供)	28
			コミュニティサイクル等の促進(自転車利用促進策)	29
		エ. 自動車利用の行動意識の変革	モビリティ・マネジメント 交通マナーの啓発	30
		オ. 観光地マネジメントの推進	観光客の受入体制等の整備(DXの活用、観光交通対策、バス乗降場、P&R駐車場等)	31
	サステナブル、レスポンスブル、ユニバーサルツーリズムの推進		32	
	ビッグデータ等の蓄積、分析、施策立案、効果検証(TDM重点エリアにおけるTDM分析プラットフォーム)		33	
	②安全・安心で歩いて楽しい快適な市街地の形成	ア.生活道路の交通安全対策	景観に配慮した生活道路の交通安全対策	34
		イ. 安全・安心で快適な暮らしを支える道路整備	龍潭線街路整備事業	35
			都市計画道路大中細街路の整備	36
	③伝統産業の継承や新たな賑わいの創出	ア.首里城公園から地域拠点への観光客の誘導	まち歩き観光の促進	37
		イ.伝統産業の拠点機能の整備	伝統産業を活かすための拠点整備・活用(suikara等)	38

1  
2  
3  
4  
5  
6

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16

ロードマップを掲載予定

## 4. テーマ(エリア)別実施プログラム

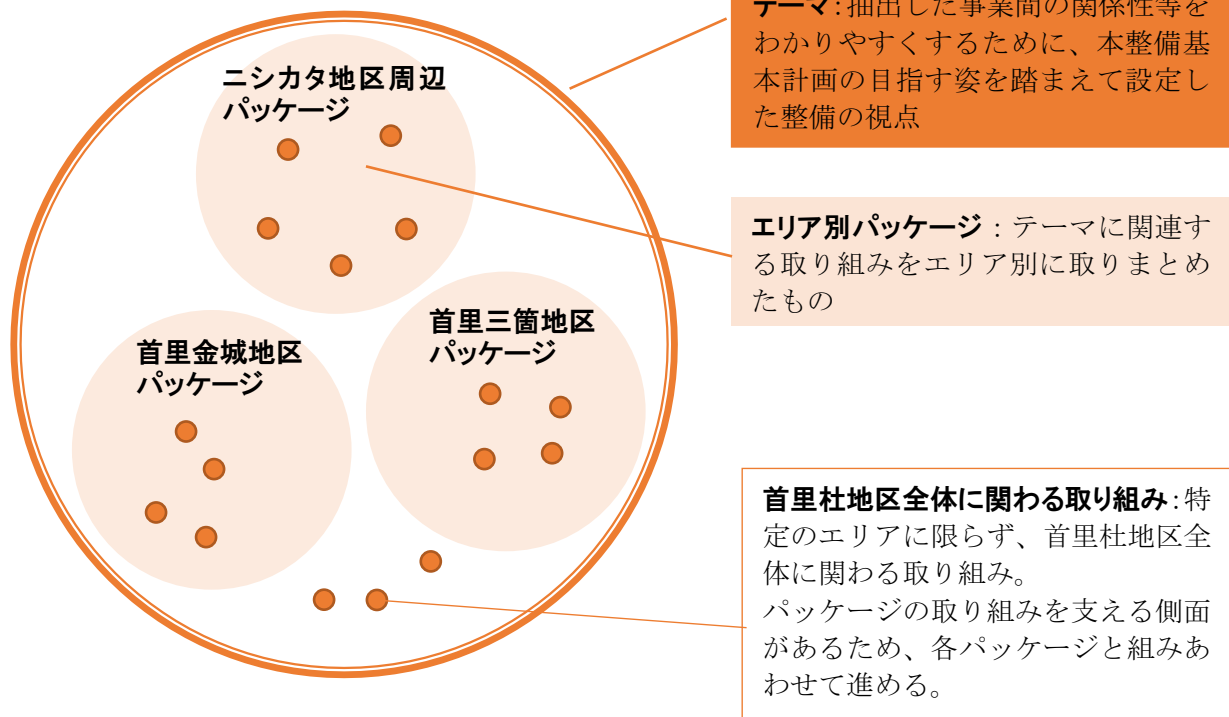
### (1)テーマ(視点)及びエリア別パッケージの考え方

「2. 抽出事業の一覧」に挙げた具体的な 38 事業は、2 章-1 節で示した目指す姿を達成するために必要な取り組みの一部（本計画期間内で取り組む事業のみ）であり、また、事業主体や事業期間、実施場所などが多岐にわたることで、それぞれの事業間の関係性がわかりにくくなると想定される。

よって、目指す姿（2 章-1-（2））を踏まえ【①「首里らしさ」の発現】及び【②持続可能なまち（住民生活・観光）の基盤づくり】の 2 つの整備テーマ（視点）を設定し、抽出した取り組みを再整理した。

そのうえで、抽出した取り組みをエリア毎に整理し、整備効果等を高めていくためのパッケージとして位置付け、取り組みを展開していく。

#### ■テーマ(視点)とエリア別パッケージの概念図



1 **(2)テーマ(エリア)別実施プログラム**

2 **テーマ①:「首里らしさ」の発現**

3 前章で整理したように、首里の特徴は豊富な水と豊かな緑を核とした「自然」や琉球王朝時代  
4 から受け継がれてきた「歴史文化」、それらが生活の中に息づく人々の「暮らし」である。

5 これら「自然」「歴史文化」「暮らし」に関わる事業を一体的に推進し調和を図ることにより、  
6 「首里らしさ」をまちの様々な場所・場面で体感でき、首里杜地区の価値や魅力の向上につなが  
7 ることが期待される。

8

**■テーマ①のエリア別パッケージ(パッケージの取組みは次頁参照)**

ア. ニシカタ地区周辺パッケージ

イ. 首里三箇地区パッケージ

ウ. 首里金城地区パッケージ

9

10

11 **テーマ②:持続可能なまち(住民生活・観光)の基盤づくり**

12 今後、首里城火災やコロナ禍の影響で落ち込んでいた観光客はいずれ回復すると予測される。  
13 観光により住民生活へ負の影響を与えないよう、生活と観光のバランスが取れた首里らしい持続  
14 可能なまちづくりが求められる。

15 主に交通面での対策、安全性など暮らしと観光のバランス・質の向上に一体的に取り組むこと  
16 で、次期計画以降も目標達成に向けて取り組むための基盤形成が期待される。

17

**■テーマ②のパッケージ項目(パッケージの取組みは次頁参照)**

ア. 首里城公園アクセス向上パッケージ

18

1 ■テーマ・パッケージ別事業一覧

テーマ①:「首里らしさ」の発現			
パッケージ等	取り組み		No.
エリア別	ア.ニシカタ地区周辺パッケージ	第32軍司令部壕保存・公開	15
		中城御殿跡地整備	16
		円覚寺三門復元工事	17
		龍潭周辺整備(松崎馬場、世持橋等)	18
		指定文化財周辺の環境整備(円鑑池園路)	20
		伊江殿内庭園保存整備事業	19
		首里大中・当蔵地区の歴史散策歩道の整備	6
		住民による修景整備(赤瓦、石垣、緑化等)への助成制度(龍潭通り沿線地区)	1
		都市景観形成地域指定によるまちなみ誘導と修景整備への助成制度の拡充(ニシカタ地区)	2
		都市計画(景観地区、地区計画等)によるまちなみ保全(高さ、意匠等)	3
	伝統産業を活かすための拠点整備・活用(suikara等)	38	
	イ.首里三箇地区パッケージ	指定文化財周辺の環境整備(南城郭、継世門等の修復保全)	20
		都市景観形成地域指定によるまちなみ誘導と修景整備への助成制度の拡充(首里三箇地区)	2
ウ.首里金城地区パッケージ	首里金城地区街路整備事業	7	
	住民による修景整備(赤瓦、石垣、緑化等)への助成制度(首里金城地区)	1	
	指定文化財周辺の環境整備	20	
地区全体	水と緑	涵養機能の活用	8
		湧水を活用したポケットパーク等の整備	9
		地区内緑化の推進	10
	地区全体の計画的整備・活用等	歴史文化基本構想等の策定検討	13
		近現代の歴史文化資源(戦跡含む)の調査	14
		地域資源の調査及び修景等	21
		公共事業における景観アセスメント	5
		沖縄らしい風景づくりに係る人材育成	11
那覇の景観賞	12		
まち歩き観光の促進	37		
テーマ②:持続可能なまち(住民生活・観光)の基盤づくり			
エリア別	ア.首里城公園アクセス向上パッケージ	渋滞ボトルネック対策	22
		龍潭線街路整備事業	35
		無電柱化推進事業(県道49・50号線)	4
		首里杜館駐車場の大型バス予約制による平準化	23
		駐車場の満空情報の発信・誘導(首里杜館及び周辺駐車場)	24
		パーク&ライドの推進(てだこ浦西駅、崎山P&R)	25
		循環バス、シャトルバス等の導入促進	27
地区全体	地区内移動快適性	観光客の受入体制等の整備(DXの活用、観光交通対策、バス乗降場、P&R駐車場等)	31
		ビッグデータ等の蓄積、分析、施策立案、効果検証(TDM重点エリアにおけるTDM分析プラットフォーム)	33
		乗合タクシー等のデマンド交通による移動手段の提供	26
		MaaSの促進(シームレスな移動環境の提供)	28
		コミュニティサイクル等の促進(自転車利用促進策)	29
	安全、安心な環境整備	モビリティ・マネジメント、交通マナーの啓発	30
		サステナブル、レスポンスブル、ユニバーサルツーリズムの推進	32
		景観に配慮した生活道路の交通安全対策	34
都市計画道路大中細街路の整備	36		

# 第4章 計画の実現に向けて

## 1. 推進体制

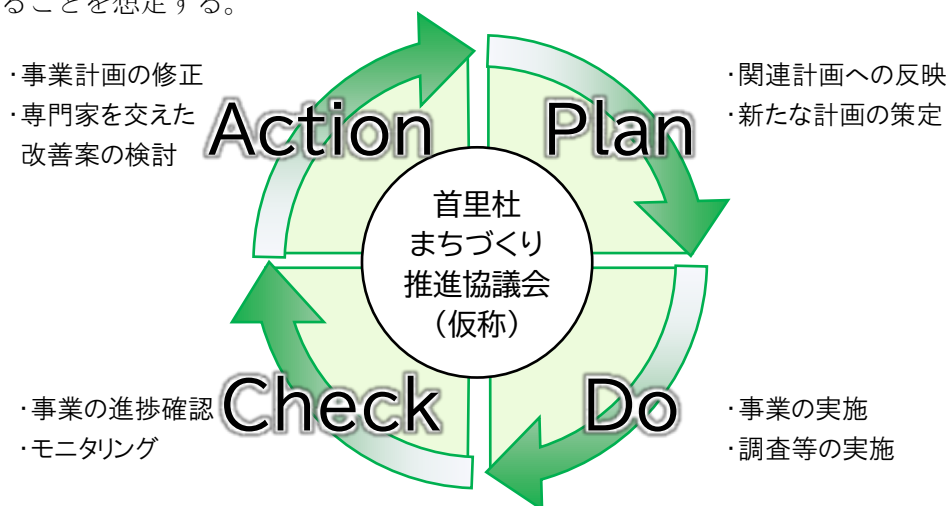
首里杜地区整備基本計画を推進するための組織として、首里杜まちづくり推進協議会（仮称）を組織する。

### (1)役割

首里杜まちづくり推進協議会（仮称）は、地域団体や事業者、学術機関、行政など、首里杜地区のまちづくりに関係する各主体が、地域の将来像を共有し、そのために必要な取り組み等について議論する場として設置する。

具体的には、本計画の進捗状況の評価や計画の修正など、本計画のPDCAを循環させることに加え、本計画のなかには実施手法や対象となる資源等について今後調査検討が必要な取り組みも位置づけられており、このような調査検討を行う主体としての役割も担うものとする。

なお、今後の首里杜地区のまちづくりにおいて、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」や「景観法」に基づく協議会等の設置が必要になった際には、本協議会が兼任または母体となることを想定する。



### (2)構成

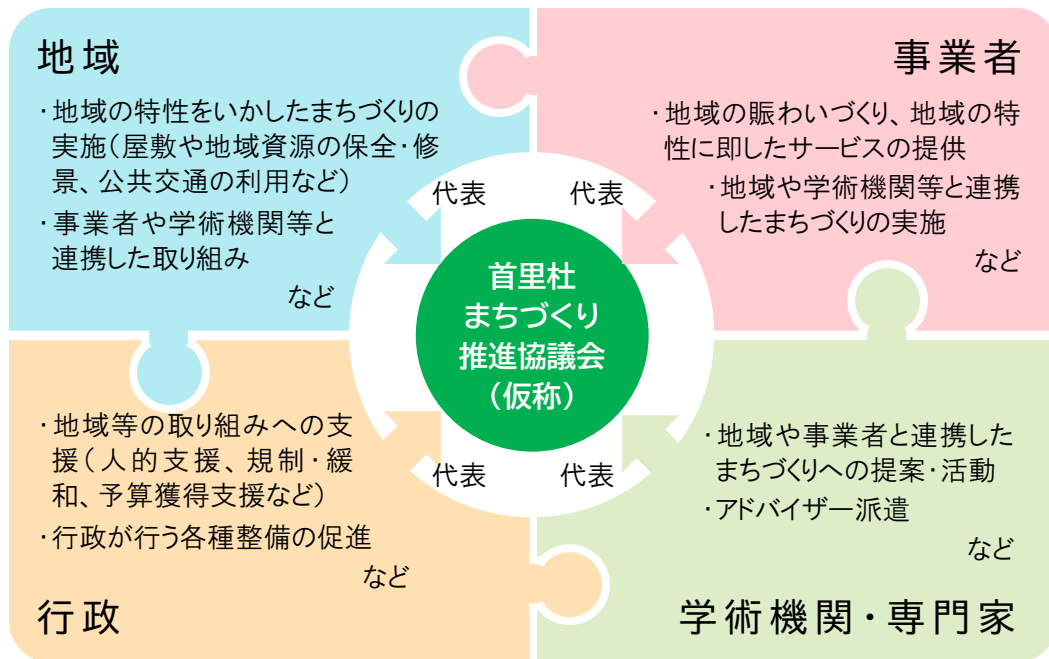
首里杜まちづくり推進協議会（仮称）は、行政関係、地域団体、関係事業者で構成する。具体的には第3章のロードマップで、事業の実施主体として記載された団体である。

#### 協議会への参加者イメージ

分類	主体
行政	国、沖縄県、那覇市 の各関係部局
地域	首里社会議に参加する団体
事業者	地域に所在する観光・商工・交通に関連する事業者(NPO や社団法人含む) バス・タクシーなど公共交通関連事業
学術機関・専門家	琉球大学、沖縄県立芸術大学など学術機関、専門家



1 ■各主体の役割

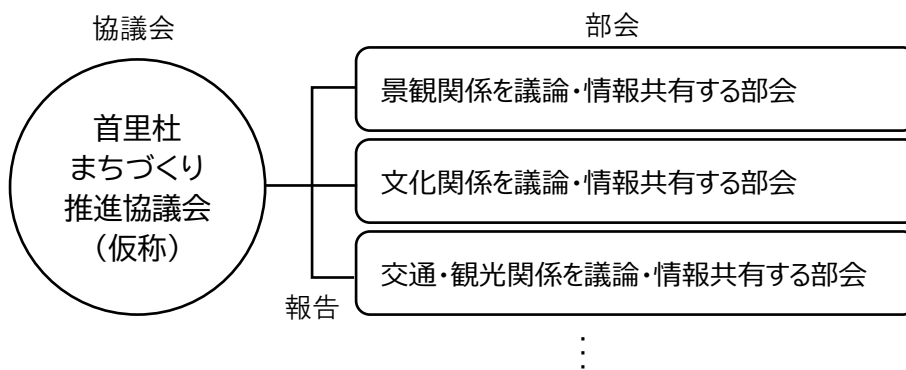


17 ■協議会の構成

18 首里杜まちづくり推進協議会(仮称)では、主に首里杜地区整備基本計画全体の進捗確認、評価、取組の変更などを検討する役割とし、協議会の下に部会を設ける。

19 部会では柔軟に議論や検討、情報共有を行い、部会での検討内容を協議会に報告・共有する構成とする。

20 構成のイメージ



33 協議会イメージ



## 2. 事業進捗の評価・計画改定

### (1) 評価と計画改定

首里杜地区整備基本計画は、2022（令和4）年度～2026（令和8）年度を前期、2027（令和9）年度～2031（令和13）年度を後期とする10年計画であることから、前期が終了する2026年度に進捗状況の中間評価を行い、2031年度には最終評価と第2期計画の検討を行う。

なお、計画の推進に必要な取組みの追加については、首里杜まちづくり推進協議会（仮称）での検討を踏まえて変更が可能なものとする。

#### 事業進捗の評価等

2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14以降
前期(5年)					後期(5年)					第2期計画
・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	● 中間評価	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	・情報共有(2回程度) ・必要に応じて調査等	● 最終評価 ● 第2期計画の検討

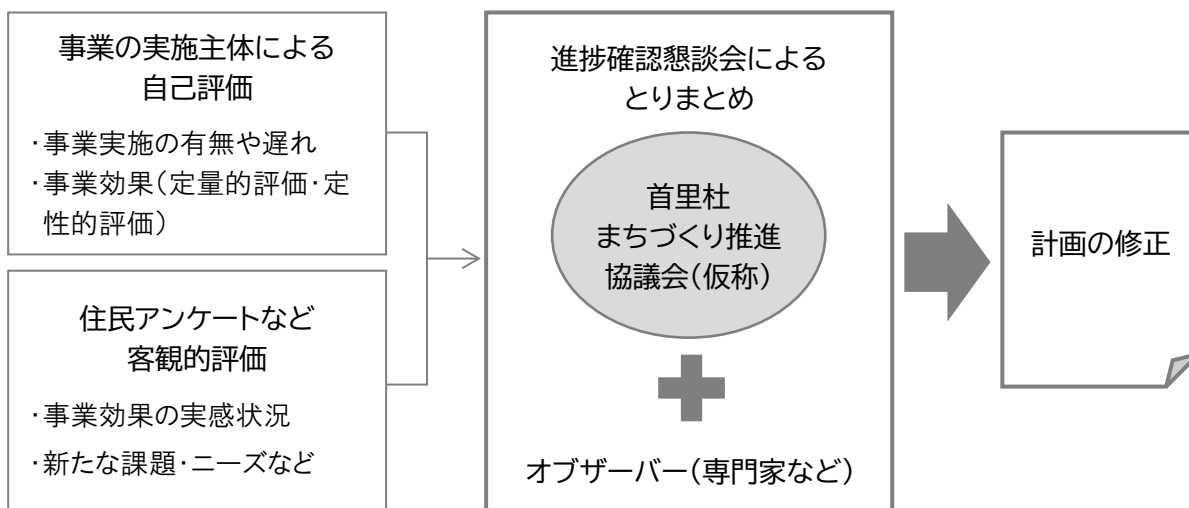
### (2) 評価の方法

#### ① 事業評価と計画の修正

進捗状況の評価は、第3章第1節で示した「計画期間における到達目標」に基づいて実施する。

評価方法（案）を下記のとおり位置づけるが、評価時点で適切な評価団体や評価方法がある場合など、実施時の状況に応じて実施するものとする。

#### 評価方法(案)



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

②継続的なモニタリング

取り組み検討の基礎資料及び取り組みの効果検証・評価等に活用するため、継続的なモニタリングが必要と考えられる事業については、モニタリングを実施する（不定期調査を含む）。継続的なモニタリングが必要なデータを、下記のとおり整理する。

モニタリングは、それぞれモニタリング実施者を設定するが、実施された調査の結果等については、年に1回、首里杜まちづくり推進協議会（仮称）において状況を共有するものとする。

モニタリング項目

モニタリング項目	必要データ	取得方法	実施者等	備考
公園施設の利用実態	公園利用者数（有料・無料区域別、団体・個人等）	指定管理者報告資料	指定管理者	
	首里杜館駐車場利用状況（台数、時間、大型・小型等）	指定管理者報告資料	指定管理者	公園利用者数との相関関係等を把握
	周辺民間駐車場利用状況	実態調査、DX活用等		
	クルーズ船寄港情報及び関連バス台数	指定管理者報告資料、港湾管理者への報告資料	指定管理者、港湾管理者	
	モノレール利用状況	沖縄都市モノレール(株)報告資料	沖縄都市モノレール(株)	
首里杜地区の交通・移動状況	自動車交通量	県警トラフィックカウンター、道路・交通センサス、交通量調査、DXの活用等	沖縄県警、道路管理者等	
	移動情報（経路、時間、滞在時間）	民間プローブデータ、レンタカープローブデータ等		データ購入
	急制動情報（危険個所の把握等）	ETC2.0プローブデータ等	沖縄総合事務局	
首里杜地区周遊状況等	人流データ	携帯キャリアGPS情報、実態調査等		データ購入
	地域散策メニュー利用者の情報（属性、利用交通機関等）	アンケート調査等	観光協会等サービス提供者	
	観光客購買情報	観光統計実態調査、MaaS事業との連携等	沖縄県、交通事業者等	
住民意向等定性的データ	住民・観光客の意向、	住民アンケート調査、観光客アンケート調査、公園利用実態調査等	沖縄県、沖縄総合事務局	公園利用実態調査は沖縄総合事務局が毎年実施
その他	必要に応じ追加			

10  
11